鍵姫物語 永久アリス輪舞曲 2

介錯 Kaishaku

C111-2

発行 メディアワークス

9784840229838

1929979005504

ISBN4-8402-2983-X

C9979 ¥550E

MediaWorks

発行●メディアワークス

定価：本体550円 ※消費税が別に加算されます

雑誌 49056-19

鍵姫物語 永久アリス 輪舞曲 ◆ 介錯

鍵姫物語 永久アリス輪舞曲（ロンド）

CONTENTS

Episode：6　3P

Episode：7　29P
――キサの幻想曲（ファンタジー）――

Episode：8　37P

Episode：9　63P

Episode：10　91P
――キサの永遠（とわ）――

Episode：11　107P

Episode：12　133P

Episode：13　159P

Episode:6

アリス警察!?
アリス警察だって…!?
……
そうっ!!

この世界の
平和と秩序の
審判者
アリス審察!!
暁(あかつき)アカネっ!!
あなたの
行為は
アリスとして
逸脱(いつだつ)してるわ!!
おとな
しく…
逮捕
されなさい
っ!!

そう
かわすのは
計算済み
よっ!!
ブラストブリッド
爆裂弾!!

うわっ!?
きゃっ!!
す…すごい…!!
やった?
綺麗(きれい)
キレイ
綺麗——

綺麗は
誰も止めては
いけない――
そして

誰も
止められない
――

火はダメだっ！
吸収される!!
水か氷・風で攻撃しろ!!

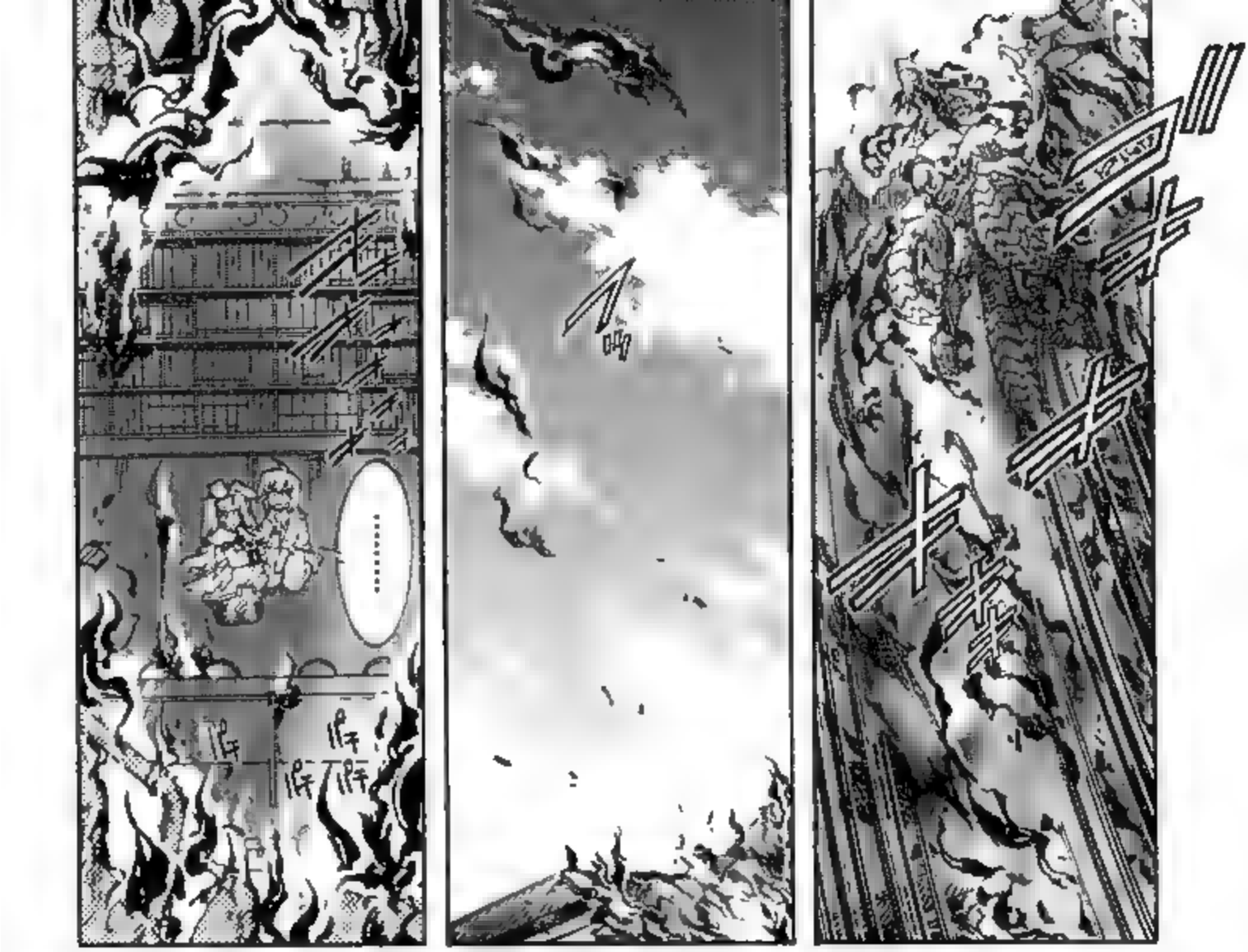
氷牙!!
グラキース・スティンス

絶!!
氷牙白狼拳!!

あの炎で何かを
具現化される前に
水裂弾(ハイドロブリット)ッ!!
ケリを
つけろ!!

砕いて
えええ!!
炎の鍵(リトルマッチ)——
わが願いを
かなえよ——
——!! また!?

竜皇天舞
あああああ!!
アーミ!!


……

綺麗…
やっぱり
アリスが
一番綺麗に
燃える…

キレーだよっ
見てっ
アンデルセンっ
どうして…
こんなことを…
さっきの二人…
大丈夫かな……
……

アンデルセンのため――
アンデルセンの持つ物語のため――
アリスが一番綺麗に燃えるから――

ぼ 僕のため―?
有人君のため――
有人君とこの娘…
どういう
関係なの…?
すく
手も
つないでたし…
じゃあ……
このアリスも
キレーにする
かい?
!?
えっ!?
ええっ!?
有人君!!
――する…
綺麗に
燃えそう
だもんね
それって
――そうか
私が狙われてる
だけだもんね
――

よく考えたら…
私有人君の
他の友達とか
よく知らないし…
会っても
アリスの話しか
しないし…

好きだって
言われたのだって
カン違いだったわけだし……
アリスに
似てる…って
言われて
―それで
アカネ
ちゃん―

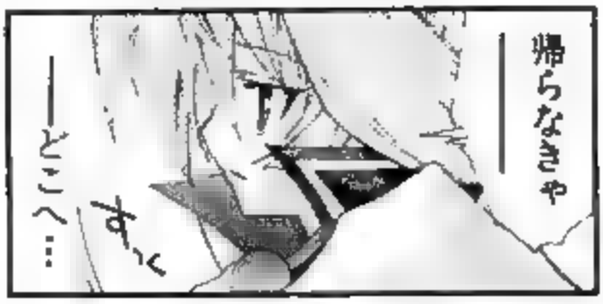
き 今日はもう
アリスのキレーは
たくさん見たから
ゆ―
ぞ
満足だよ―

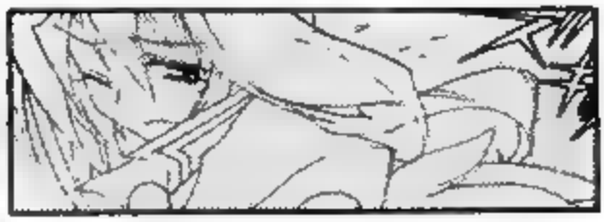
私が…
舞い上がって
ただけ
かも―

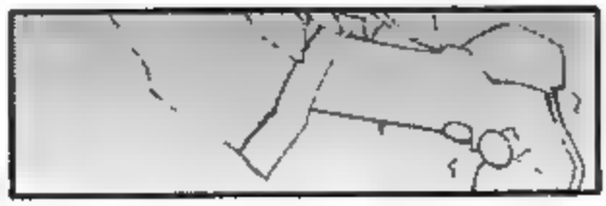
このアリスは
あとの楽しみに
取っておこう——
だって……
アンデルセン
が——
それでいいなら——
私
有人君のこと——
うん…
それじゃ
行こうか——
何も知らない
——

あ…有人
君……
…………
次…燃やすね
…………

パチ
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ


帰らなきゃ
すっ
――どこへ…





痛い…
罰が当たった――

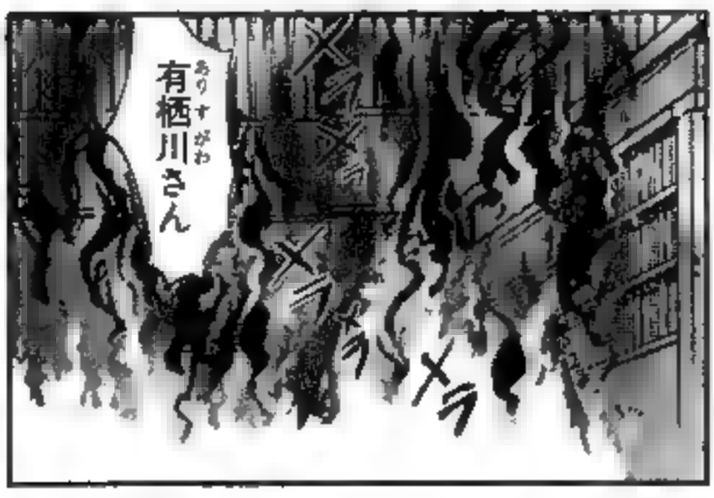
有人君の
彼女面して
独り占めしようと
するから――
罰が
当たったんだ――
痛いよ…

ぼろ
一人……
私は一人……!!
ぼろ
ぼろ
ぼろ

うえっ
いやだ…
うっ…
う…

そんなの
いやだよぉおっ
ぉ"ーー

ぉーーん
ぉーーんぉん


有栖川(ありすがわ)さん

あちっ

ひゃっ
危な
かった…
ど……
どうしたの
……？

どうって…
あの娘をだまして
先にドアから出して
現実世界に戻したあと
引き返して
きたんだけど……

ああでもしなきゃ
有栖川さん
燃やされちゃうって
思って……
ほんとに
言うこと
きいてくれて
よかった…

バカ……

バカ バカ
バカ バカーっ
私っ…
私いっ

てっきりあの娘と
行っちゃったって…
そんなこと
するわけないよ

アカネちゃんは
今日はじめて
会ったんだよ…
何か…
危ない娘
だったね…
気をつけ
ないと…

そう……
だったんだ
私…
びっくりして…
あれ…
何で…!?
あれ…
あれ…
許さないっ
ごめん……
だますつもりは
なかったんだ…
敵を欺くには
味方から
――って
あの娘みたいに
ギュッ
してくれないと
許さない!!
ええっ
許さないん
だからっ!!

そ…そんなこと
――
しちゃって
いいの…かな？
そんな
きらはみたいに
ふくれられても…
……
――どうしよう――

私……
有人君が
好き……
有人君がいないと
ダメ……

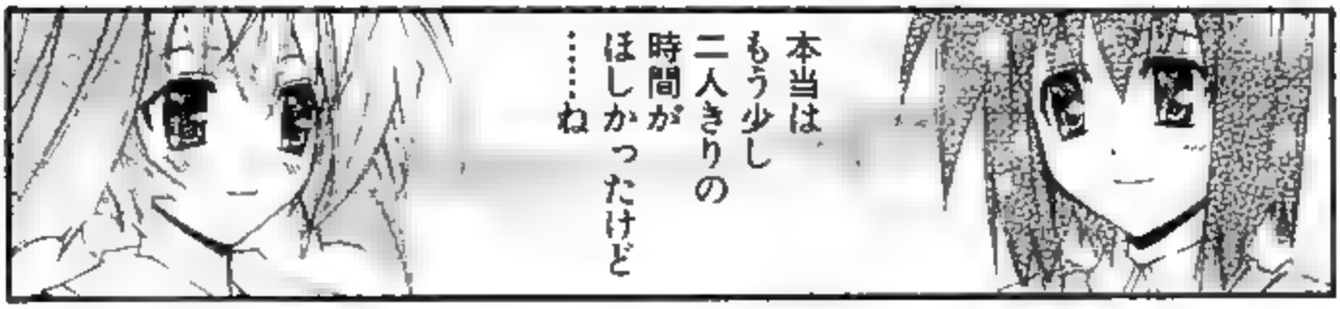
ダメ
だよおおおっ

キョロ
キョロ
アンデルセン……
いなくなった
……
火事だ――!!
放火だーっ
カーン
カーン

さて…
出口のドアまで炎でいっぱいだけど…
この炎の海をどう脱出しようか…
私に…あの娘みたいなすごい能力があれば…
なんとかできると思うんだけど…
せめて…
キサちゃんみたいに水の能力が使えたら…
そうだ――
ひとつ試したかったことがあるんだ――!!
いいかな
みんなの物語がアリス能力者としての力になっているんだとしたら
その詞の力を上書きできれば力を使えるかもしれない――

これは……

まさか
あんなにうまく
いくなんて…
そうね…
びっくり
しちゃった


本当は
もう少し
二人きりの
時間が
ほしかったけど
……ね

ガチャン

君には
黙秘権がある
発言はすべて
証拠として――
法廷で
採用され――
そして
弁護士を雇う
権利が――
……

Episode:7
――キサの幻想曲(ファンタジー)――

かきまぜ
かきまぜ
かきまぜて
次は
卵黄ですの
今日は
きらはちゃんと一緒に
おかし作りですの…♡
少しずつ
少しずつ
混ぜますの
この
くらいずつ?

キサちゃんが
いれば
おいしいおかし
作るのも
百人力だね
私いつも
失敗しちゃうん
だよね——

と…言うのも
このレシピは
昨日図書館で
見つけた本に載ってた
相手を
好きになる
魔法のクッキーの
作り方なのですの!!

きらはちゃんは
有人センパイの
ために……
じゃーん
星型だよっ
私のは
ハート型
ですの
そして私は
きらはちゃんのために
失敗できませんの
それにしても…
ぽよ
エプロン姿の
きらはちゃん本当に…
かわいいですの…♡
外に
お砂糖
まぶしても
平気かな?
あ
お砂糖
ですの?
たぶん
大丈夫ですのっ
きらはちゃん
甘いのが
好きですの
上手に
焼けると
いいですの
うんっ

キラキラ
できた〜っ
おいしそ〜っ

味見っこ
してみますの？
きらはちゃんの
すご〜く食べて
みたいですの
ん——
でも…

でもでも…
一番はお兄ちゃんに
食べてもらいたい
し…
う〜〜〜ん…

わかりましたの
……

それが
目的ですの
…♡
もともと
仲良しだし
きっと大丈夫
ですの♡

そうしたら
キサちゃん
きらはの事
好きに
なっちゃうし…
きらは
キサちゃんの事
好きになっちゃわ
ないかなー

それじゃあ
自分が作ったのを
味見するですの
いいですの
それなら
大丈夫ですの
そうだね…
味見は
しておいた方が
いいよね…
うふふ…
きらはちゃんには
本当に悪いん
ですけど
その星型のは
きらはちゃんのでは
なくて
こっそり私が作って
おいたやつですの
これで…
キサちゃん
好きっ…♡
好きだ
よおおっ
ああっ♡
ドキッ♡

おいし――
私って天才～～～
思ってたより甘くないけど……
え……

あら…？
魔法失敗ですの…？
そうだ…かわいい袋に入れちゃおーっと
たたた

おかしいですの…!!
きっと何かがまちがってるですの
だだだのだだだ♪
……

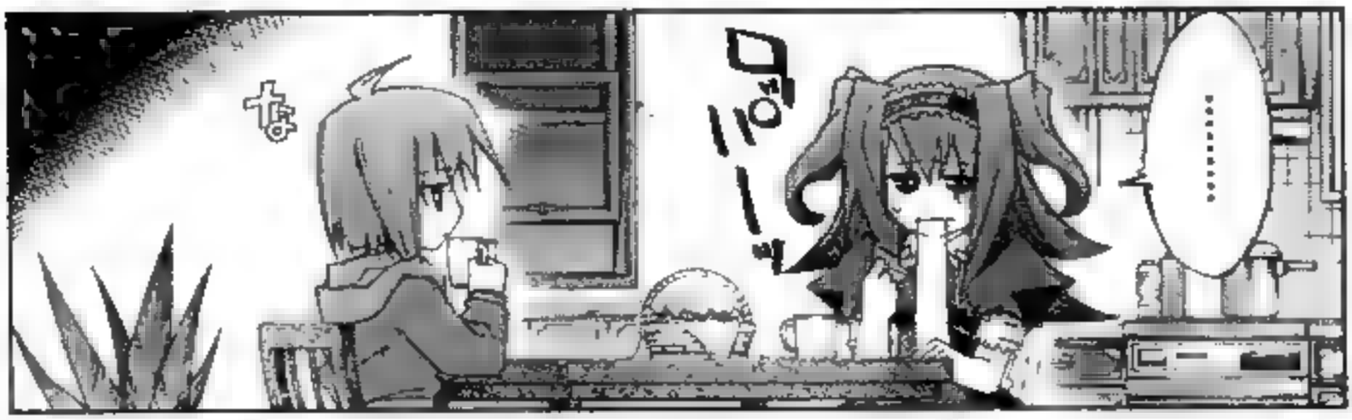
あ――っ!?
大失敗ですのっ!!
ふぇっ!?

この本の…
相手を
好きになる
クッキーって…
「食べた相手は」
好きになるじゃなくて
「食べた相手を」
好きになるクッキーって
意味でしたの!!

どういう
事?
「好きな
人のために
心を込めて作る
クッキー」って
事ですの!!
この本を
書いた人に
だまされ
ましたの!!
つまりは…
ただのクッキー
って事?
ですの
…
でもでも
おいしく
できたから
まあ…
いいかな…
それに…

その人のために
クッキーを作って
もっと好きになるって
……
ロマンチック
じゃない
……
それもそう
ですの…

お兄ちゃんっ
今日クッキー
焼いたんだよっ
おいしそう
だね…
……
ぱくっ
もぐもぐ
きらは…
コレ…
また
砂糖と塩
まちがえた
だろ…
ロッピー
ええっ
そんなはず
ないよっ
味見したしっ
おいしかったん
だからっ!!
ぱらーっ
ぱくっ


……
ロッピーな

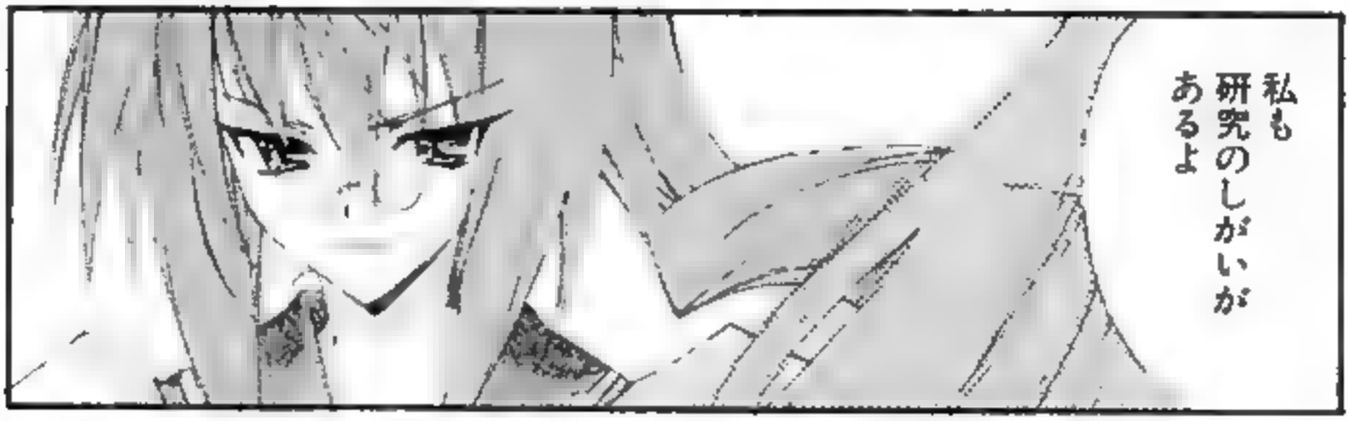
えぇーっ
何で
〜〜っ!?

きらはちゃんの事
ますます好きに
なっちゃいますの…♡
ある意味魔法は
成功でしたの
いただいたこれも
食べずに
取っておきますの♡
結局キサちゃんは
自分の取り違えのせいで
きらはのクッキーが
失敗していた事に
気づきませんでした……

Episode:8

やったあ♡
十冊目
ゲットだわ♡
よかったね
お兄ちゃん♡
ちゃんと
写して返して
あげないとね

あ～～っ
この調子で
どんどん集めて
いければいいね
そうだね！
どんどん
ねっ♡


私も
研究のしがいが
あるよ

キリカ先輩
いつの間に…！
やあ
まだ

研究対象である
君達のことは
いつもみてるんだよ

まぁ…
私以外にも
見てる者達は
いるようだがな…
例えば
そこに…

えっ!?
バカッ
ぐいっ
何でお前はそうなんだ!?
そんなんじゃかっこよく登場できないだろっ!!
んあっ
すいません刈名センパイ
あの〜〜っ
何か用ですか?
…………

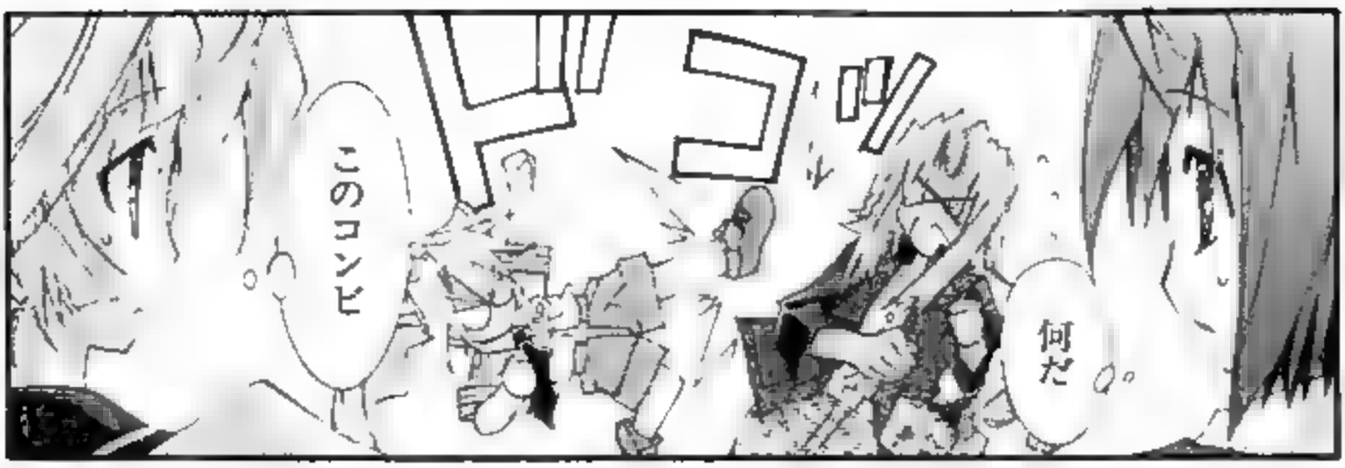
先日は
すまなかったわ
協力……
感謝します

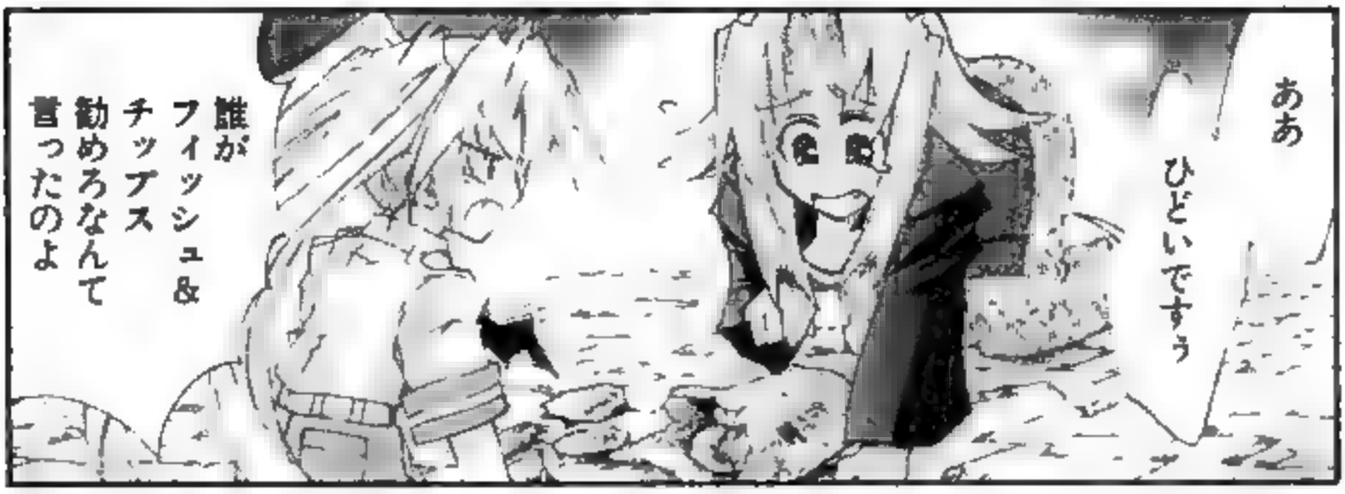
って
誰？

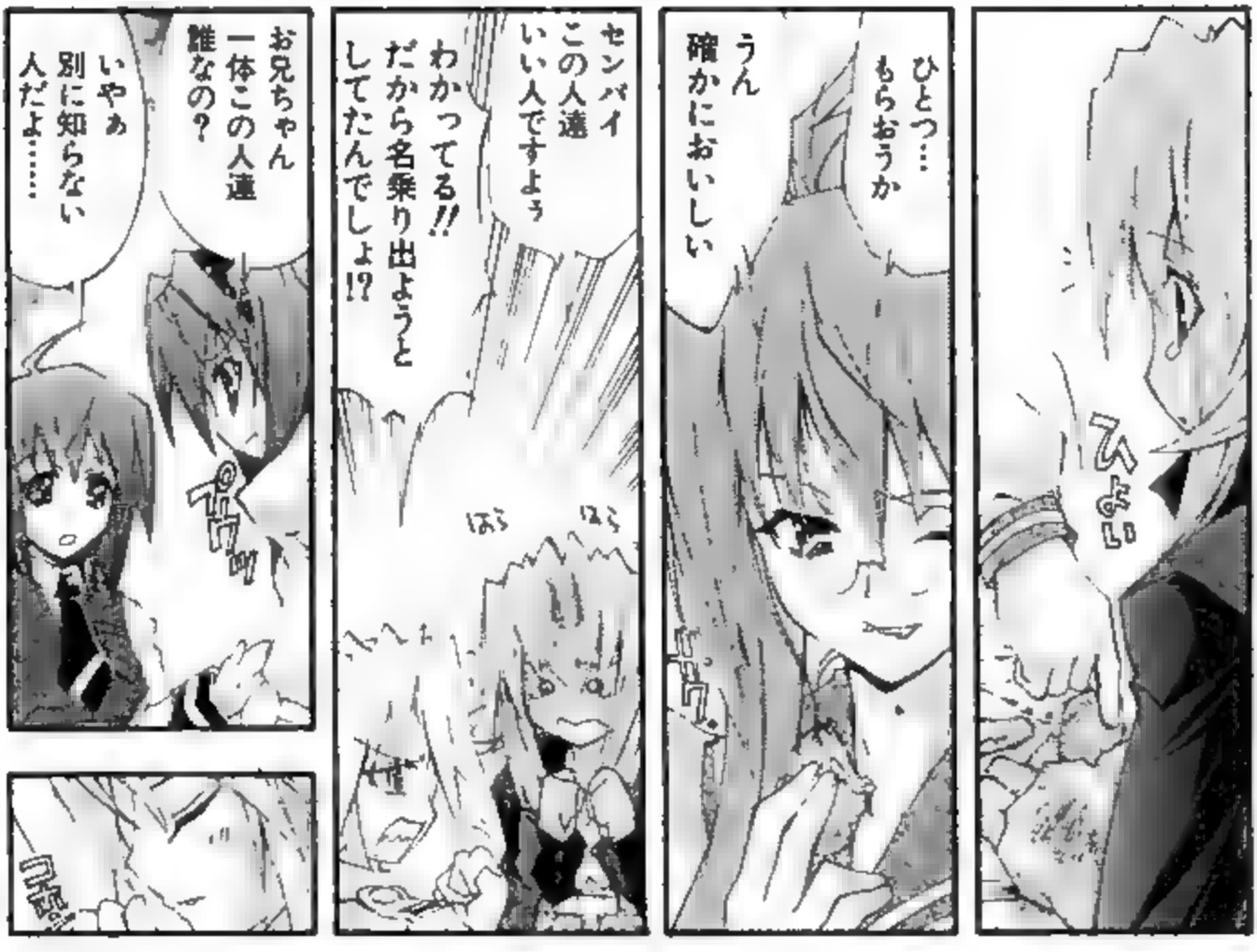
ああああ
またお兄ちゃんが
知らない女の子と
仲良くなって
るううっ!?
そうか
この姿では
しかたない
わね

アーミ!!
教えてあげなさい

フィ
フィッシュ&
チップス
食べますぅ？


何だ
このコンビ


ああ
ひどいですう
誰が
フィッシュ&
チップス
勧めろなんて
言ったのよ


ひょい
ひとつ…
もらおうか
うん
確かにおいしい
センパイ
この人達
いい人ですよう
わかってる!!
だから名乗り出ようと
してたんでしょ!?
ぱら ぱら
お兄ちゃん
一体この人達
誰なの?
いやぁ
別に知らない
人だよ……

私は
苅名カリン
彼女は
雨宮アーミ
えぇ？
私達は
不思議の空間で
アリス警察として
活動している
よかったら
私達のマスターに
会ってくれない
かしら？

アリス警察
――！
あの時の
――!!

よかった
無事
だったん
ですね
二人で
心配してた
んですよ
やっぱり～っ
二人だけ
知ってるん
じゃない!!

あのぐらいで
やられるほど
アリス警察は
弱くないのよ

センパイ
この人達
いい人ですよう
だからマスターが
会いたいって
言ってるん
でしょっ!!

ここよ…
ここでマスターは待ってるわ

え…？
だってここって…
いつも来ている図書館だよ？
うん
こんな場所に――？

そう……
それじゃあそこで戦ってたのは偶然じゃなかったのね
あなたもアリスに呼ばれたのかもしれないわ

アリスに呼ばれた――？
まぁくわしい話は中でマスターから直接聞いてちょうだい

中で…って図書館ではあまり話したりしない方が…
イヤイヤ
まぁ入ってみてよ

あれ…!?
いつもの図書館のホールと……
場所が…
こんなスペースあろうはずはないわけだが…
ここは不思議の空間みたいなものよ
アリス能力者しか入れないわ――

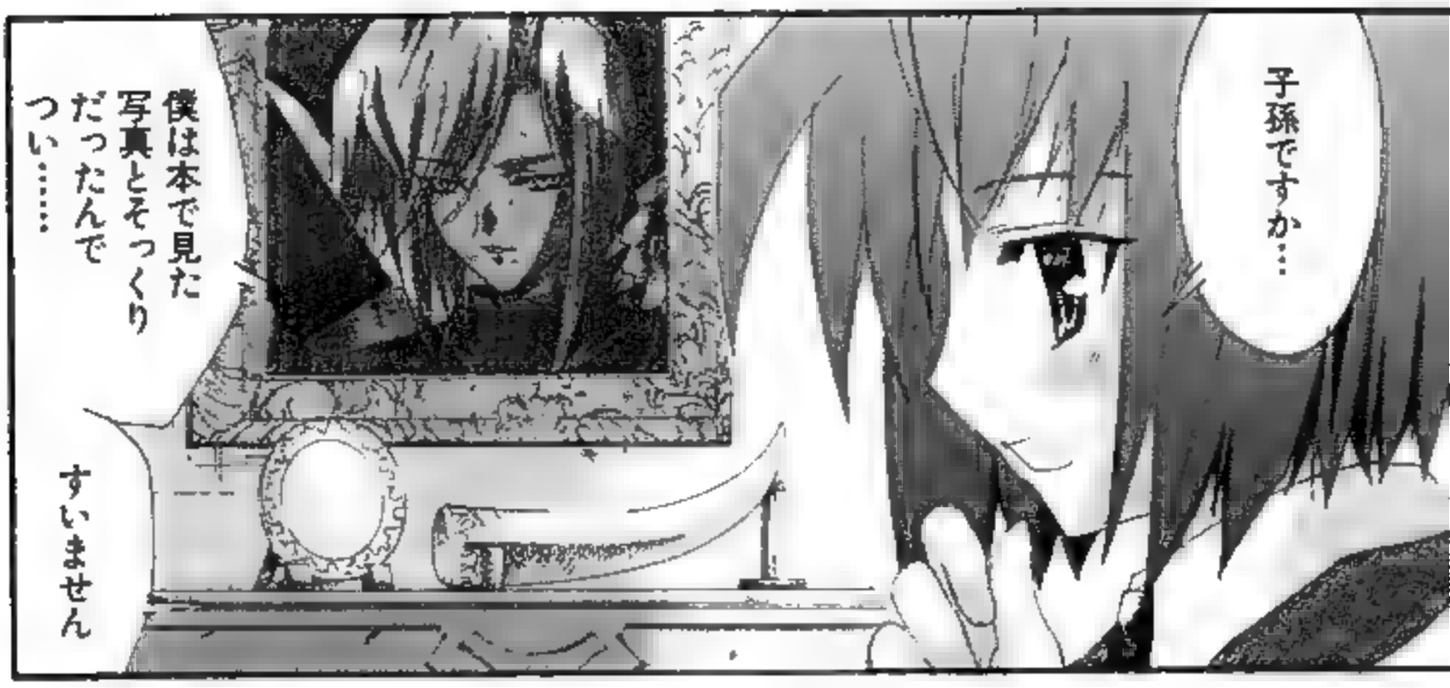
おもしろいな――
不思議の空間(ワンダースペース)は人のいない空間になるだけかと考えていたが――
違う場所への入り口にもなるとは――

……これって

失礼します
お連れしました
入ってくれたまえ

ようこそ
ようこそ
アリスの館へ
美しき
決闘者達よ
こ…
この人は…!!

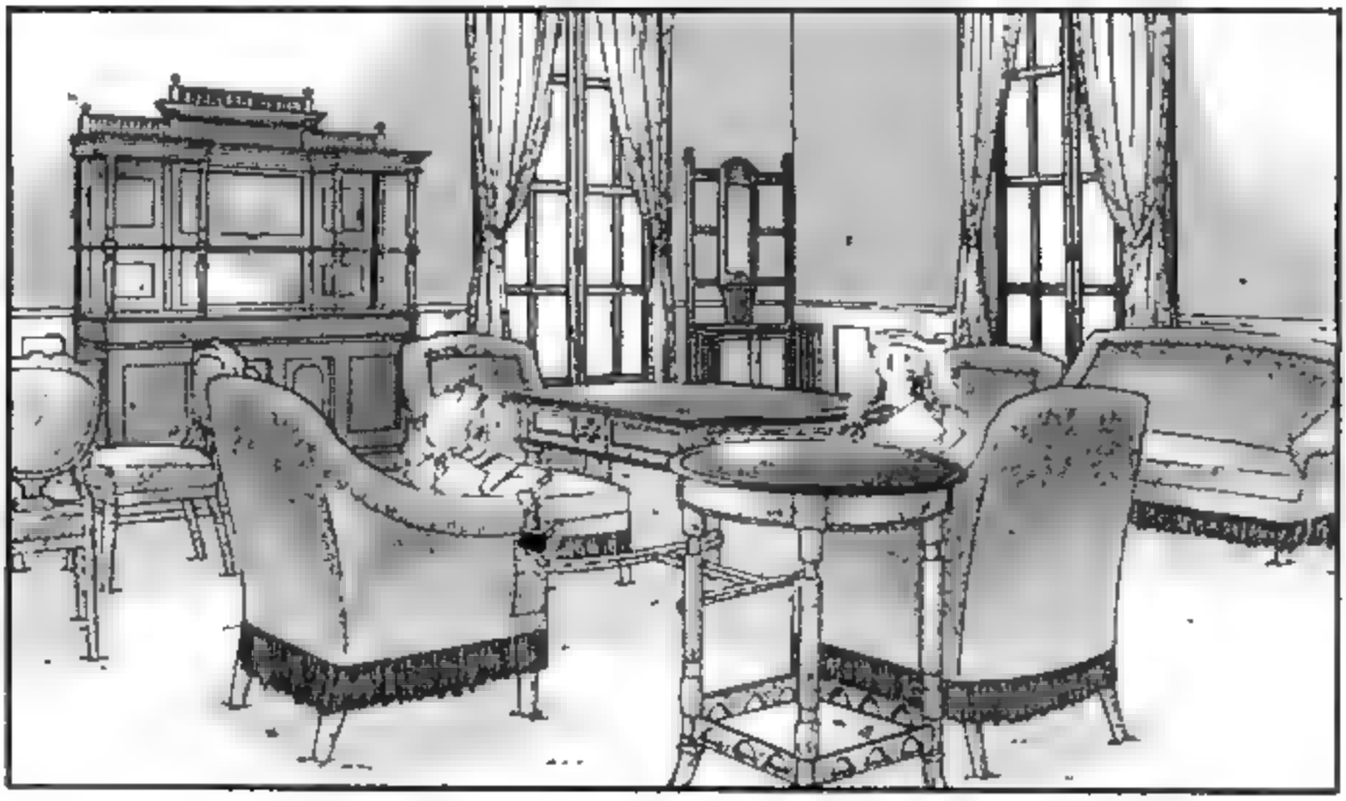
オルタナイト・L・タキオンさんっ!?
ほう! 私の曾おじいさんの名前を知っている……
もっともそうでなくてはここにいるはずもないわけだが
たたた…タキオンさんっお会いできて光栄ですっ
ササササインをっ!!
お兄ちゃんよく話聞いてっ曾おじいさんだって!!
あくあくあくしゅ
ひい……おじいさん……!?
はっ!
だいたい生きているわけないでしょ?
そう
私はアリスの物語の作者「オルタナイト・L・タキオン」の子孫——
ここでは「アリスマスター」と呼ばれている


子孫ですか…
僕は本で見た
写真とそっくり
だったんで
つい……
すいません

いやいや
気にすることは
ないよ
なにせ
君達は
選ばれた
人間なのだから

選ばれた
……!?

まぁ
立ち話も
なんだから
隣の部屋で
話そうか



あらかわいい
お客様だから他の部屋で遊んでなさい
お嬢ちゃん名前は？

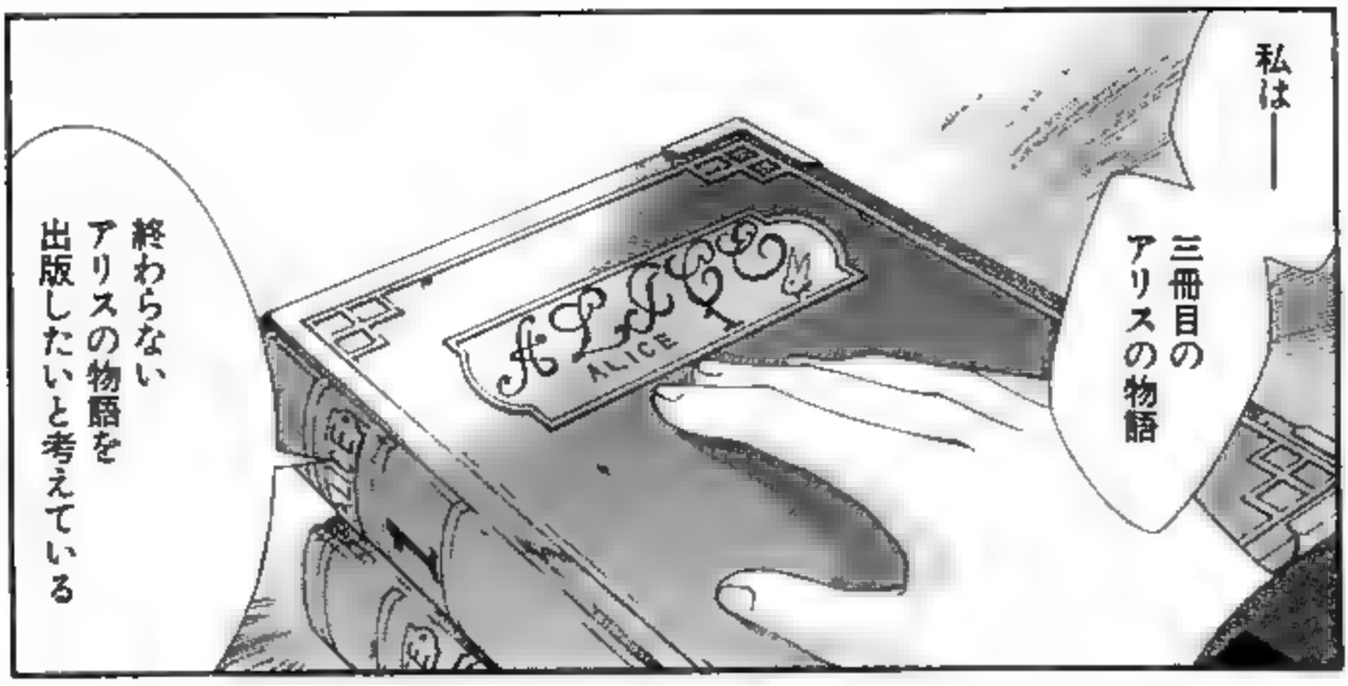
ありす
えっ？
……
てててて

この館にある物はすべてアリス――そしてそれにまつわる物達なんだ
さっきの部屋の本達も世界中で出版されている本だし――
この館にある物達も――
あ 気がつきました!!
途中にあった絵とか装飾とかも…そうですよね
なるほど それでアリスの館…ですか
ってことはあの子達もアリス能力者なのかな
し……
司書官さん!?
お茶をお持ちしました

私はね ここで
アリス図書館の
管理をしているのよ
言うなれば
表の図書館の仕事は
おまけかな?

君達の
アリスに関する情熱は
彼女に聞いたんだ
その美しい思いが
あるからこそ
心に物語を宿す
ことができる

だからこそ——
君達に協力して
もらいたくて
ここに来てもらったんだ
協力…!?


私は——
三冊目の
アリスの物語
終わらない
アリスの物語を
出版したいと考えている
ALICE

出版…って…
ナルホド
普通に
読めるように
なるってこと
ですか？

それが作者の意思であり
一族の者として
やるべきことだと
思っているからだ
賛成です!!

……

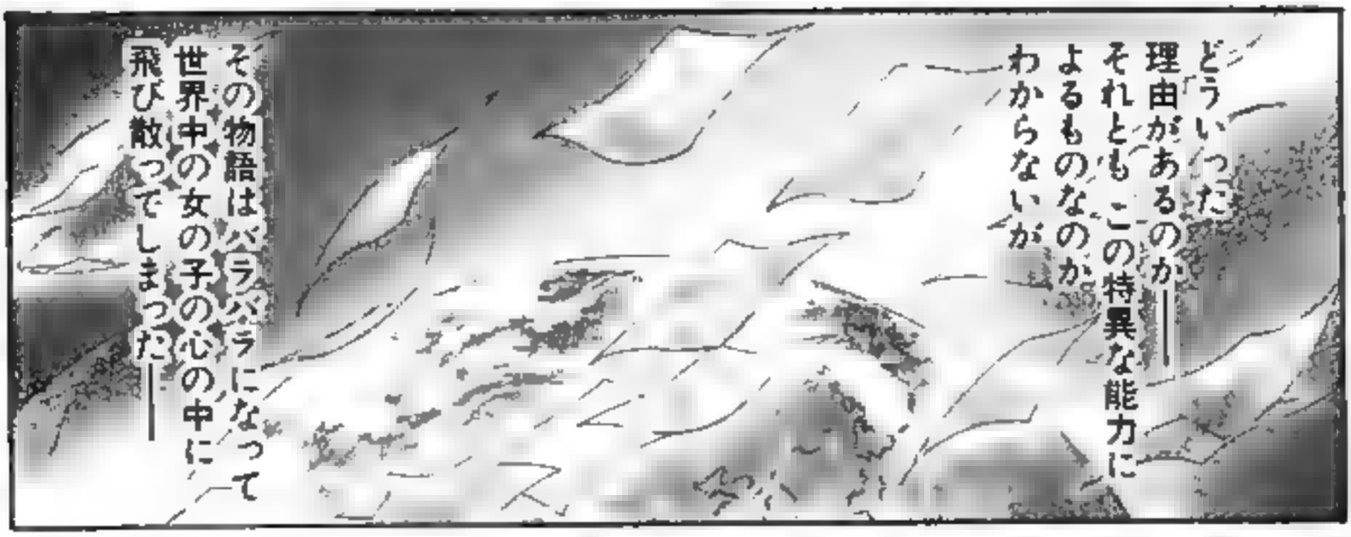
僕達も
ずーっと読みたいって
思ってました!!
それで…
その原文は——
ここにあるん
ですよねっ♡

こんなラッキーな
運命があるなんて!!
まさかタキオンの
子孫に会えるなんてっ
……!!

そしてそしてっ
「終わらない
アリスの物語」の
出版の手伝いを
できるなんてっ!!
なぁんて
幸せなんだっ

もしかして
もしかしてっ
お兄ちゃん
最初に読んだ
読者になっちゃったり
してっ…!!
お兄ちゃんっ
てばっ
しっかり!
残念ながら…
ここにその
原文はないんだ
……
えっ!?

まさに君達が
奪い合っている
ページ……
それらが
「終わらない
アリスの物語」
そのものなんだ


どういった
理由があるのか——
それともこの特異な能力に
よるものなのか
わからないが
その物語はバラバラになって
世界中の女の子の心の中に
飛び散ってしまった——

優れた感受性を持ち
想像力にあふれ
心に想いを秘めた
女の子達——
そんな人達の中には
アリスの物語が
宿っている……
君達だって
その例外では
ない……

不思議な能力を持ち
不思議な物語を
奪い合い
決闘する――
なぜなら
「終わらない
アリスの物語」には
それをするだけの
秘密の不思議な
力があるからだ

なんでも
願いをかなえる
ってやつね
わく
わく
そう――

では 願いを
かなえたあと
残された物語は?
私はそのあとの
物語を
出版したい
その公平な監視役として
アリス警察も創った――

そうすれば物語は
いずれ正しい者の手によって
一冊にまとまる――
すべての物語が
ひとつになる――

君達に——
ぜひ
その正しい者に
なってもらいたい——

正しくない者
っているん
ですか？
……

有栖川君と
桐原君は
会ったことが
ある…かな？

目的のない者——
希望のない者——
そして
理由のない者——

その者達の中には
物語を集めずに
失くしてしまう
者や――
能力者の命まで
殺めてしまう
者もいる
嘆かわしい
ことだ――

暁アカネは
放火 その他の
罪の容疑で
拘置所にいるわ
でも…
鍵さえ
持っていれば
そんなものは
簡単に
抜け出せる…

そう…
ですね
うん

ちょっと
何で二人だけ
知ってたり
するのよっ!?
また…

彼女のようなタイプは
何をするかわからないから
……危険だわ
くれぐれも
気をつけてね

自分が――
アリス能力者である事に――
物語に選ばれた者であることに
誇りをもってがんばってほしい
キラッ

はいっ
がんばりますっ！

よーし
やるぞ〜っ
おじゃましまーす
いつでも
遊びにきて
くれたまえ
……

あの……
失礼ですが…
以前にどこかで
会ったことは
ありませんか？

私はほとんど
ここからは
出ないのでね——
気のせいだと
思うが……
有人君通のように
写真ではなくて——
かい？
…そうかも
しれませんね
それでは
……
……

——

まあいいさ…
研究のテーマが
増えただけさ…
センパイ!!
どうか
したんですか?
いや……
真実に近づくために
がんばらないと
――ね
そうですよねっ
物語も読めない
もんねっ
がんばらないと
願いも
かなわないし
だけど――
その真実に
近づくことが
何を意味する
ことなのか――

この時の僕らはまだ
——わかっていなかったんだ

よいのですか？
あそこまで
話してしまって——

かまわないさ…
ちょっ
彼らが
どんな者達で
あろうと
あの
すばらしい
空想・創造力を
使って——

私達の
アリスのために
協力してもらう事に
変わりはないの
だから——
今度こそ——
クス。
終わるとよいの
ですけど——

故(ゆえ)にその少女は眠り姫と呼ばれた——

Episode: 9

その日の午前中――
カァァアアッ
あっつぅ～
暑いよ～
ぱた
ぱた
ぱた
ぱた
ぱた
ぱた
いいかげん
クーラー
買おうよぉ
お兄ちゃん
はふ

そんな暑そうな服着てるからじゃないの？
ぼっ

……

覗いてたでしょ
――Hっ!!

そんなことよりその服で出かけるのかい？
そ…そんなことって…!!

もうっカワイイ服着てるのの何が悪いのよっ!!
誰に見てもらいたくてだと思ってるの～～っ!!
バカあっ

でも…暑いんだろ？
外の方が暑いんだし
制服にしたら？

まぁ 確かに
制服の方が涼しいんだけどね…
さん
さん
変な服着るよりは大分普通だし……

でも…何か釈然としないのよ～っ
ガラ
ガラ
だって…
やっぱり暑いものは暑い……

だからこれから涼みに行くんでしょ？
そりゃあ…そうだけど…
……
そぉ

ん～～～っ
冷たくって
おいひ～っ

ありがとー
お兄ちゃんっ
トホホ

やさしい～
んだね～～～
ほ
は、

いやだなぁ
はぁはぁ
今みんなの
分も買おうと
思ってた
ところだよ

どうだ？
こんな舐め方で
……
ありがとー
有人君っ♡
おごってもらっちゃった

どうだって
何がですか
……？

エロ少年の
妄想と観察の
ために買い
与えたの
では……
そんなんじゃ
ありませんっ!!

有人君――っ
お兄ちゃ――ん

有人君と
初めてのプール
ドキドキしちゃう
なぁ
今日は
お兄ちゃんに
思いっきり
甘えちゃおーっと

よし
着いたぞ
ここだ
ここだ

プール
楽しみだ
なぁぁぁっ

ここは…？

小広場…？
何か不思議な
空気のする所ね
プールはどこ？

えっ
プールなんて
ないぞ？

ええ～～っ
私は〝涼みに行く〟と
言っただけで
プールだとは
一言も言ってない

ほらーっ
私も
プールだと
思ってた…

プールだって
言ったの
誰よ～っ
……
ごめん…
僕だ…
てっきり
そうだとばかり…
ほらほら
ほら～っ
みんなでプールだと
思ってたんだし
水着だって
持ってるんだしっ
今からプールに
行こうよ～っ
私はちゃんと
心霊スポットで
アリスの研究
――つまり
心霊と不思議の空間（メルヘンスペース）の
関連性について調べるから
肝試し感覚で涼める
かもしれないぞと
はっきりと――
そんなこと
言ってませんっ
そんな内容なら
おぼえてますよっ
そ
そ
そうよ

だいたい
そんな話
聞いてたら
来なかったし
……
心霊スポットって
そんな……
キュピーン

ありすちゃん
後ろっ!!
きゃあっ!?

なによ～っ
なにもいないじゃない
ドキドキ
びっくり
させないでよ～っ

ありすちゃん…
もしかして…
オバケ
怖いの?

いや 実はここは
出るってことで
有名な場所
なんだ
ガーン
ええっ!?

私はそれら
超常現象と
アリス能力は
関係してるのでは
ないかと思ってる
あるいは
不思議の空間(メルヴェイユスペース)と——
かもしれないが

不思議の空間(メルヴェイユスペース)は
異次元なのか
それとも——
人間の
集合意識なのか
——何であれ
この幽霊が出ると
いわれている場所で
不思議の空間(メルヴェイユスペース)でも
幽霊が出るかどうか
調べようというわけだ

やる事といえば
単純で——
はぁ…
この辺をさまよって
霊感を感じたら
鍵を使って不思議の空間(メルヴェイユスペース)に入って
みるというだけなのだが——

多少 背筋も凍え
涼むことも
できるんじゃ
ないかと…
おもしろそう!!
やるっ!!

じょ…
冗談じゃ
ないわ…
おず…
!!
あ…ありすちゃん
後ろっ!!
どよ〜ん
きゃあああああ
たた
キャー
キャー
キャー
有栖川
さん!!
あっ
待ってよーっ
Fly
本当に
面白いわっ

そこにいるわっ
きゃあああ
きらはちゃん
やめてよぉぉっ
そうだ きらは
悪ふざけが
すぎるぞっ
だいたい
走ると
暑いしっ!!

今……
はは
…うん…
イヤアア
本当に
いたあああああっ
おおいっ
きらは
違うだろっ　鍵っ
鍵っ!!
そんなこと
言ったたって力が〜っ
不思議の空間!!

ガラッ
どうだー？
こっちの世界に幽霊はいるかー？
先輩――
また見てませんが――
こっちの世界にいた場合……二つの可能性がある――
アリス能力者の場合と――
別の霊的な何かが多次元的に存在してるか――
これはこちらにいなかった場合でもそうだが……

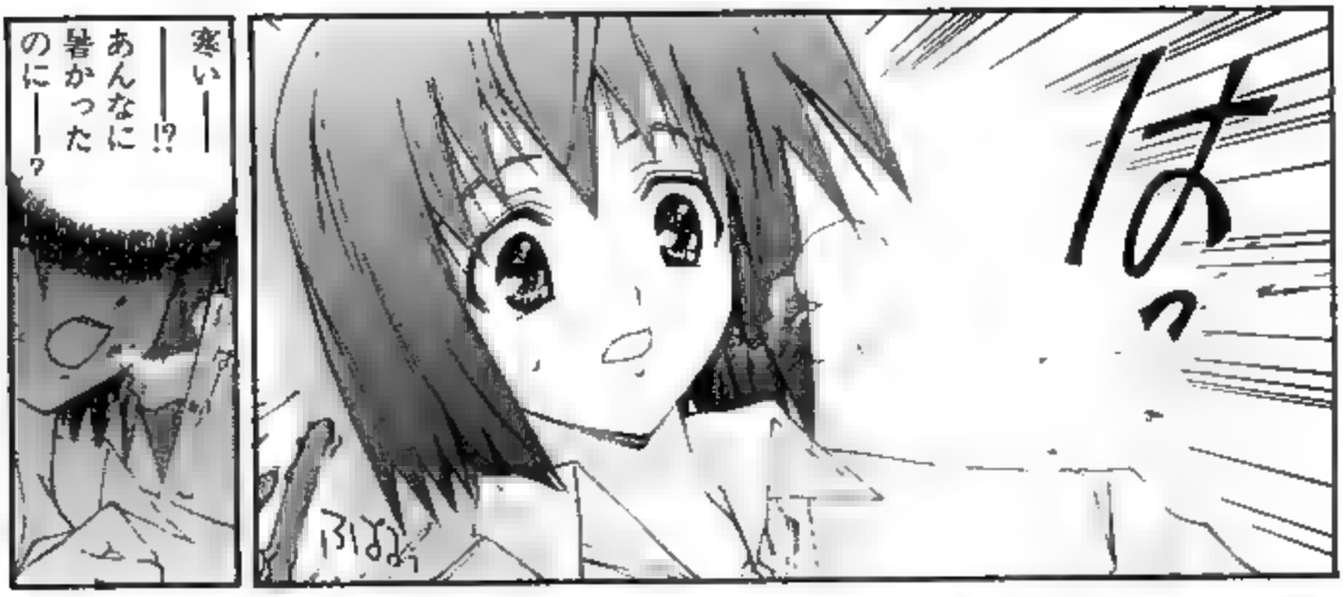
そ…そうね…
アリス能力者
だったら
別に怖くは……
ポヴ
その別に…の方
みたいだけど
……
うん
えいっ!!

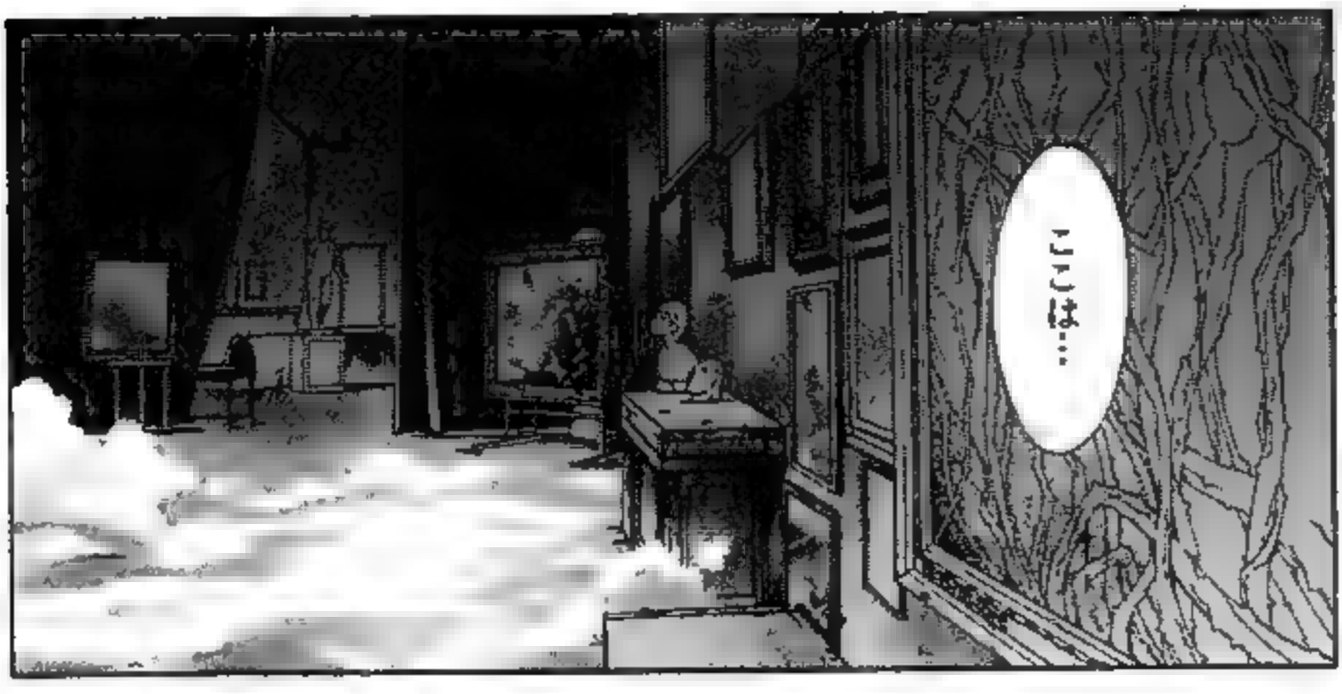
!?
待ったわ…

80年も
待ったのよ

ちょっ
ちょっと
透けてるしっ
光ってるしっ
すり抜けるん
だけどっ
ガス
これって…
もしかして〜っ
え?

あ 有人君っ
お兄ちゃん

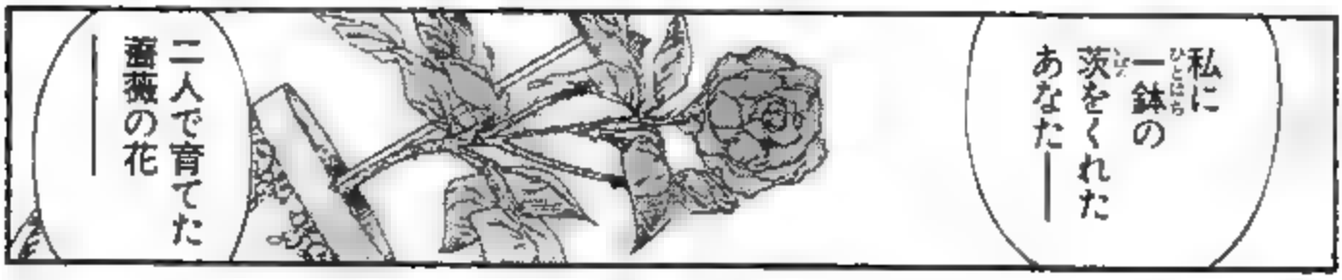

はっ
寒い――!?
あんなに暑かったのに――?


ここは…

待ったわ…
君は……
能力者…なのかい？
やっと
会えた……
待った――？

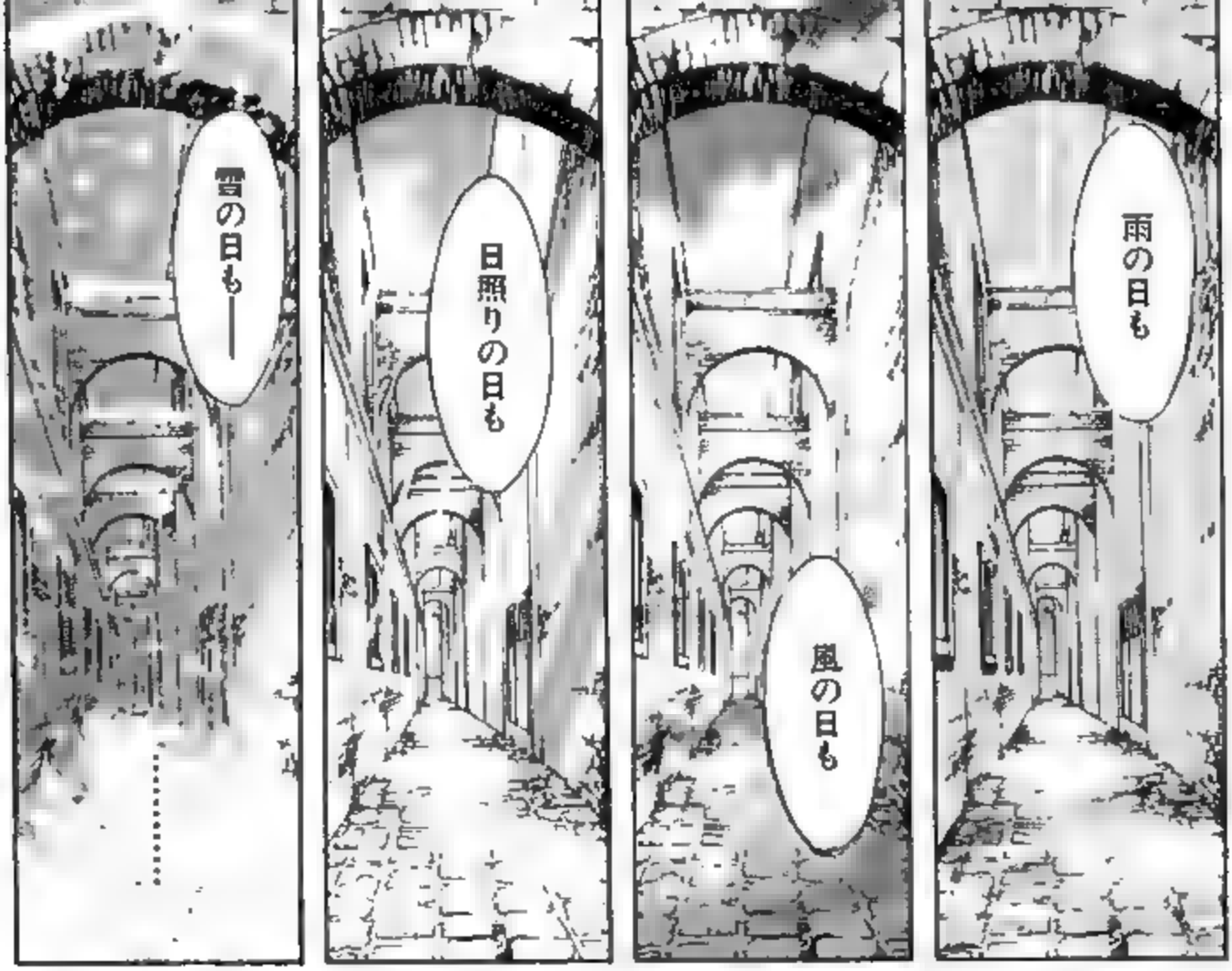
僕…どこかで
君に――？
あなたにとっては
ただの悪戯だったのかも
しれないけど――
私にとっては
大事なひと時
だった――
その思い出は
80年たった
今でも
変わらないわ
――
80…年…!?
ガビーン!?
80年前

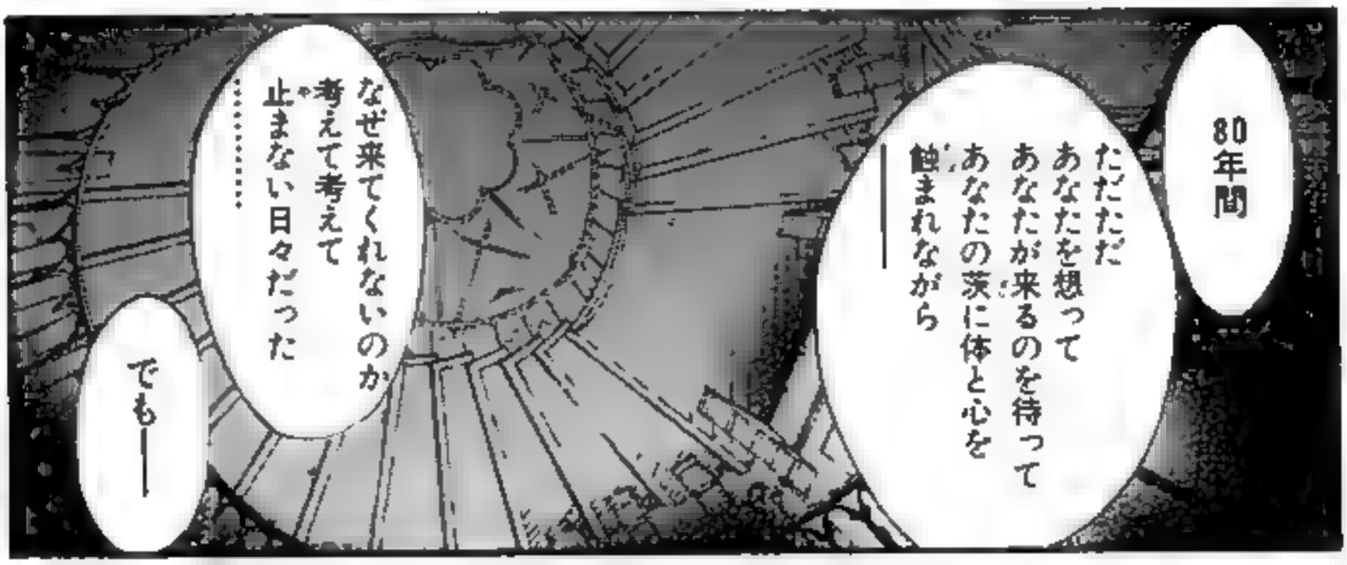
私を愛してくれた
あなた……
私に物語を
語ってくれた
あなた……
私に素晴らしい物が
ある事を教えてくれた
あなた――


私に
一鉢の
茨をくれた
あなた――
二人で育てた
薔薇の花
――

その茨を
育てながら
この場所で
待つ――
それはまるで
夢のような
幸せ――

だってここは
あなたとの
大切な場所
――
私は
まどろみ
ながら
あなたの茨と
あなたの私が
あなたが来るのを
じっと待つ
――


雨の日も
風の日も
日照りの日も
雪の日も――
……


80年間
ただただ
あなたを想って
あなたが来るのを待って
あなたの茨に体と心を
蝕まれながら
――
なぜ来てくれないのか
考えて考えて
止まない日々だった
……
でも――

これもまた
必要なのだと
――

ずっとずっと
一人ぼっちで
考えてたんですもの
今なら
わかるわ

時は想いを
裏切らない
――
消えるわけ
ではない――
むしろそれを
増すために――
寝かされた
物語――

なにを
なにを
言ってるんだい？
時を越えても
変わらぬ物が
あると――
時を越えて
――？
お願い――
私に永遠を
――

私を見て――
感じて――
私の刻を――
私の物語を――

私という女の子を——
アリスの物語に刻んで
——

アリスの物語に…
刻む……!?

さあ
タキオン…
えっ!?
わわ
わあああっ

……!?
タキオン
じゃ……!!
ぼっ 僕はっ
!
ばっ
そこにはただ――
一冊の物語があった――

彼女が幽霊だったのかアリス能力者だったのか
どうかはわからない――――

Episode:10
――キサの水面――

学校はキライですの
たくさん
人がいるから

人ごみは
キライですの
悪をしているのが
苦しくなる気がして…

人はキライですの
自分の波やリズムを
人に押し付けようとするから

はぅ。
——でも

人はこの水を隔(へだ)ててしか
存在できない——

すべては

水の中なら 平気

人の波は水の流れで
やわらかな波へと
変わるから——

ひとつの波へと——

そう——

私の記憶の奥底の
ひとつの波——

きらはちゃんの
波へと――
キサちゃんっ
きらはちゃんの
周りには
きらはちゃんの波が
立ってますの
今度さっ 一緒に
プール行かない？
その波は心地よくて
行きますのっ
私はずっとそこに
ただよっていたいと
思いますの
そのためには
学校や
きらはちゃんの
お兄さんも
誘いますの
人や
そうそう
二人だと
行ってくれない
のよ～～っ
物事…すべてを
キライだとは
言っていられ
ませんもの

あっ でもっ
きらはのお兄ちゃんは
きらはのお兄ちゃん
なんだから
好きになっちゃ
ダメだよっ

わかって
ますの
きらはちゃんは
本当に
有人センパイが
大好きですの
〜〜〜〜〜

きらはちゃんは
センパイの事を
考えてる時が
一番かわいいですの…♡

じゃーん
新しい水着だよっ
まぁ
ドキドキ
かわいくて
きらはちゃんにとっても似合いそうですの
キサちゃんも新しい水着買ったんだよね
ポフ
そうですの
きらはちゃんに見てもらいたくて…ですの♡
じゃあさっじゃあさっいっせーので見せっこしようか
見ないように背中合わせで着替えるの
わかりましたわ
見ないように着替えるんですのね

とは言うものの
ピッ
かわいい
きらはちゃんの
着替えを
覗かないわけには
いきませんの
ドキ
細く
しゅっとした足
すべてが
最高ですの
ドッキ
ドッキ
このしなやかな腕
ぶっくらとした
胸……
キサちゃん
着替え
終わった？
あっはい
じゃあ
せーので
見せ合うよっ

せーの
せっ

なになに
それっ
キサちゃん?
それ すっごく
かわいいっ
ずるーいっ
えっ

わかった!!
それで
お兄ちゃんの
気を引こうって
いうのねっ!!
別に
そういう
わけでは
〜〜〜〜

きらはの
お兄ちゃんの事
好きになっちゃ
いけないって
あれほど言ってる
のに〜〜っ
フローリング
フローリング
怒った顔もまた
かわいいですの
……
そうですの

キサの水着と…
交換…
してみますの？
え……
しまった――!!
顔に出てたかも
変だったかも
変だって思われたかも

本当にっ!?
いいのっ!?
きらはちゃん
さえよければ…
よかったですの…
ドキッ
ドキッ

でも
キサちゃん
とは
サイズが…
きらは
ちゃんなら

きっと
似合いますの
ニコニコ

お兄ちゃんっ
遅いよきらは
買っておいたアイス溶けちゃったよ
何か気がつかない？
そんなことより…ねぇねぇ
そんな水着持ってたっけ？
キサちゃんに貸してもらったのっ
そんなことより何かあるでしょっ!?

あ…ああ
よく似合ってて
かわいいよ
やったあ♡
キサちゃんは
私のを着てるん
だけど
どう?
キサちゃんが
きらはの
水着を!?
そりゃあ
きついんじゃ
ぴちぴち
ぴちぴち
……
……

キサちゃん
早くプールに
入ろっ！
う…うん
早く
早くっ

しまった
……
逆効果だった
みたい…ですの
ごめんなさい
ですの……
でも……

もっとがんばって
きらはも胸大きく
なるもんっ
でも……

これがッ
きらはちゃんの
着た水着ッ…!!

ダメ…ですの…
しあわせすぎて…
頭が……
ボーッとして…
キサちゃん？
何だが……
それは
幼い頃の記憶――

きらはちゃんとの
結びつき…

人が与えてくれた
生きていいという
許し――

触れていいという
許し――

大丈夫？
キサちゃん

また…
助けられましたの

私はこの――
人と私を
隔てる
水を通して

人を好きに
なれるかも
しれない――

私の大好きな
きらはちゃんを
通して

人を好きに
なれるかもしれない……

きらはちゃんの
描た
私の水着……

宝物ですの…

Episode:101

ここは……
チクタク
チクタク
チクタク

みんなはどこー？
私……どうしたの…？
小さく…なってる…？
ガ
ガ
ガ
きゃっ!!
お兄ちゃん…
お兄ちゃあ
あぁんっ
何？
何が…
どうなってるの!?
うぅっ…

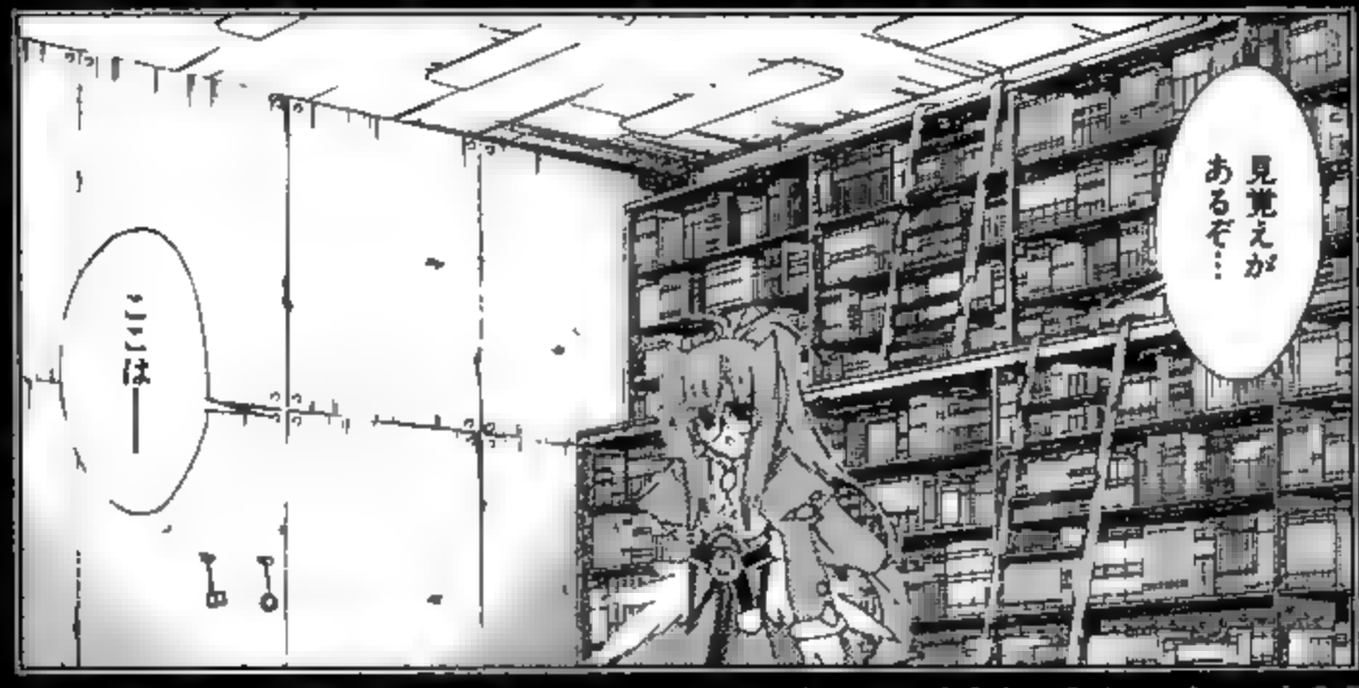
お兄ちゃんを
捜しているのかしら――？
だあれ――？
誰なの――？
何でお兄ちゃんを捜しているの？
一人ぼっちはいや……
かわいそうなの……
お兄ちゃんをみつけてどうするの――？
お兄ちゃんを
みつけたら――
もじ
――みつけたら
お兄ちゃんとずっと…ずっと一緒にいる――
きらはがお兄ちゃんのアリスになって
お兄ちゃんのお嫁さんになるの!!
ア ア ア

醜い——
——夢だこと
え？
きらは
何してるんだ？
そんな所で
ボーっとして

お兄ちゃん…
大丈夫か？
どこか具合でも悪いのか？
ううん
平気……だよっ
そうか……
よかった…
!?

お…お兄ちゃん…
お兄ちゃんから
なんて……
めずらしい…
ん？
どうした？
ああ――
ちゃんと
キスして
ほしかったん
だね
かわいい
なぁ……
きらはは
――！
ユッ
とろおん
お兄…
ちゃん…

これは…


見覚えがあるぞ…
ここは――

ああああッ!?
キリカさん
早く問題を解いてしまいなさい
イオナ先生――

しゃべってる暇があったら問題の一つでも解く!!
ピシ
ピシ
方程式の一つでも覚える!!
人より少しでも上に立つ!!
はっはい!!

いいですか…キリカさん貴女はできる
いえ
できるようにならねばいけません
それがお父上の意思なのです

遊ぶ時間を惜しみなさい
そして人と無駄話をする時間を慎みなさい
人と話したければ哲学・心理学・言語学・歴史学・を学びなさい
全ては学問からの統計の延長です
先人達に成されている事です
で…でも
外で殴い合ったり悩みを語り合える友人を――

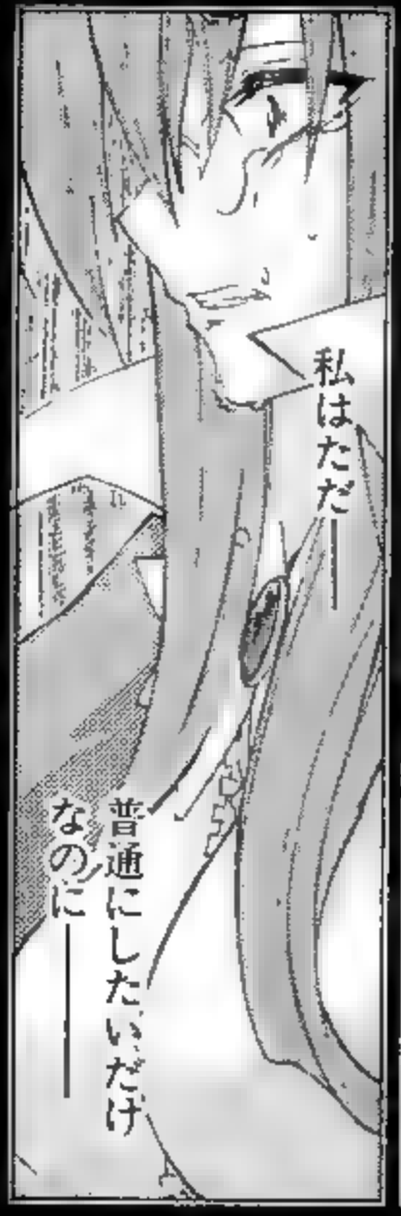
無理です——
生まれてからこれまで——
ほとんどをここで育ってきた
貴女はコミュニケーションを
学んでいない
人ときちんと
語り合う事は
できない——
それに
貴女と競い合える
能力を持った
同じ世代の子供など
いません
低いレベルに
合わせる必要も
ない——
だったら
もう——
仮に
作ったと
しても——
ロリーナのように
失うのが
関の山ですよ——

ロ……
リーナ……
私が…失う…
私の親友……

時間です
問題の正解率は
66%——

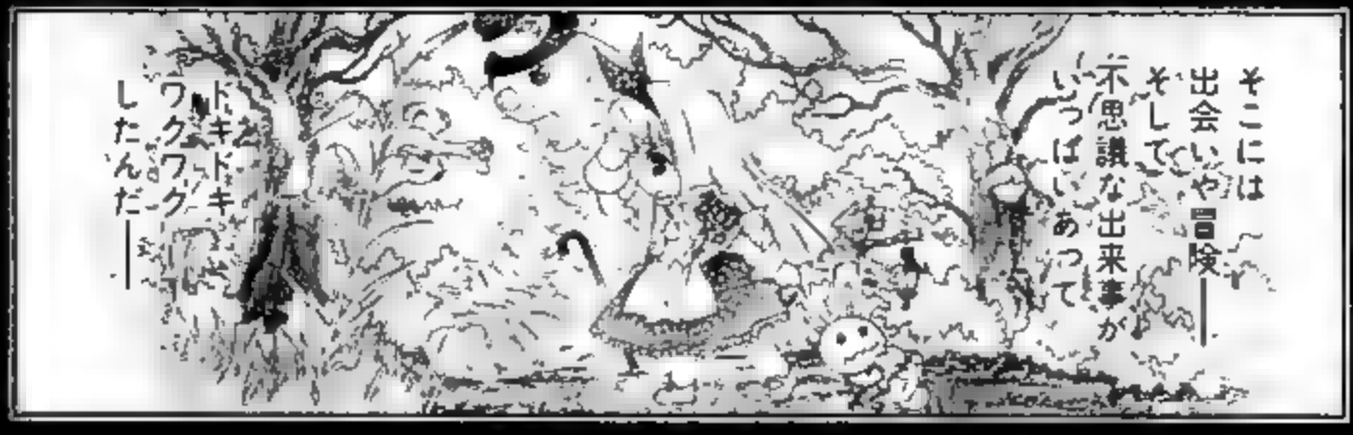
今日の食事の
分量はB割に
——
無駄な
会話をすると
こういう事に
なります——

トイレに入る前の
問題も1ランク
難しいものに
しておきました
この間みたいに
そそうをしない
ように
人以上を
目指すからには
人並みの事なんて
してはいけません
よ——


私はただ——
普通にしたいだけ
なのに——

普通になるという
夢のため――
どんなひどい
事をしたの――？
私は――
何を――
した――

アリスの物語は
不思議な話——
アリスという少女を
不思議な国へと
誘う話——


そこには
出会いや冒険——
そして
不思議な出来事が
いっぱいあって
ドキドキ
ワクワク
したんだ——

——いや…
どちらかというと、
アリスに
ドキドキ
していたのかも
しれない——

困難に負けず
明るく——
やさしく——
かしこい——
は——、
アリスの物語を
読むだけで——
その世界に触れるだけで
とても楽しかった——

子供のころから
こんなにも
空想癖が
強いとは――
なんて醜い
――――
アリスの本は
二冊しかなかった
から――
アリスを
読むために――
会うために――
自分で書こうと
思ったんだ――
自分で
想像の――
思いどおりの
女の子を書く
――
何てエゴイスト
――
しかも――
よりによって
二次著作
だなんて――
恥だわ――
でも
アリスは
勝手に動くしっ
いろんな事を
考えただけで
すごくドキドキ
するんだっ!!
ときどき
いるのよね――
夢に満足してる人
――
何万人に
何十万人に一人かも
しれないけど
つまらない
人――

こっちの方が
面白そうね――
こ……
変人同士みたいな
……キスだね――
そうかい……？
ひゃっ!?
お…
お兄ちゃ…
手が…っ
何かっ
ん？
手が……
私の
おしりに
……

あッ
ストン
ちょ…
お兄ちゃんっ
スカートがっ
愛してるよ
きらは……
え……
キィイ
え？
えっ!?
何っ!?

何だよ……
本当は望んでた事だろ――？
えっ……
兄妹同士の――
一線を越えた――
禁断の果実を――！
い……いや…
違うわっ……
そんなのお兄ちゃんじゃないっ!!
イヤヤヤヤッ
たとえかわいい少女でも――
たとえ綺麗な女性でも

子供のころの夢は
眩いもの――
残酷なもの――
適わないもの――

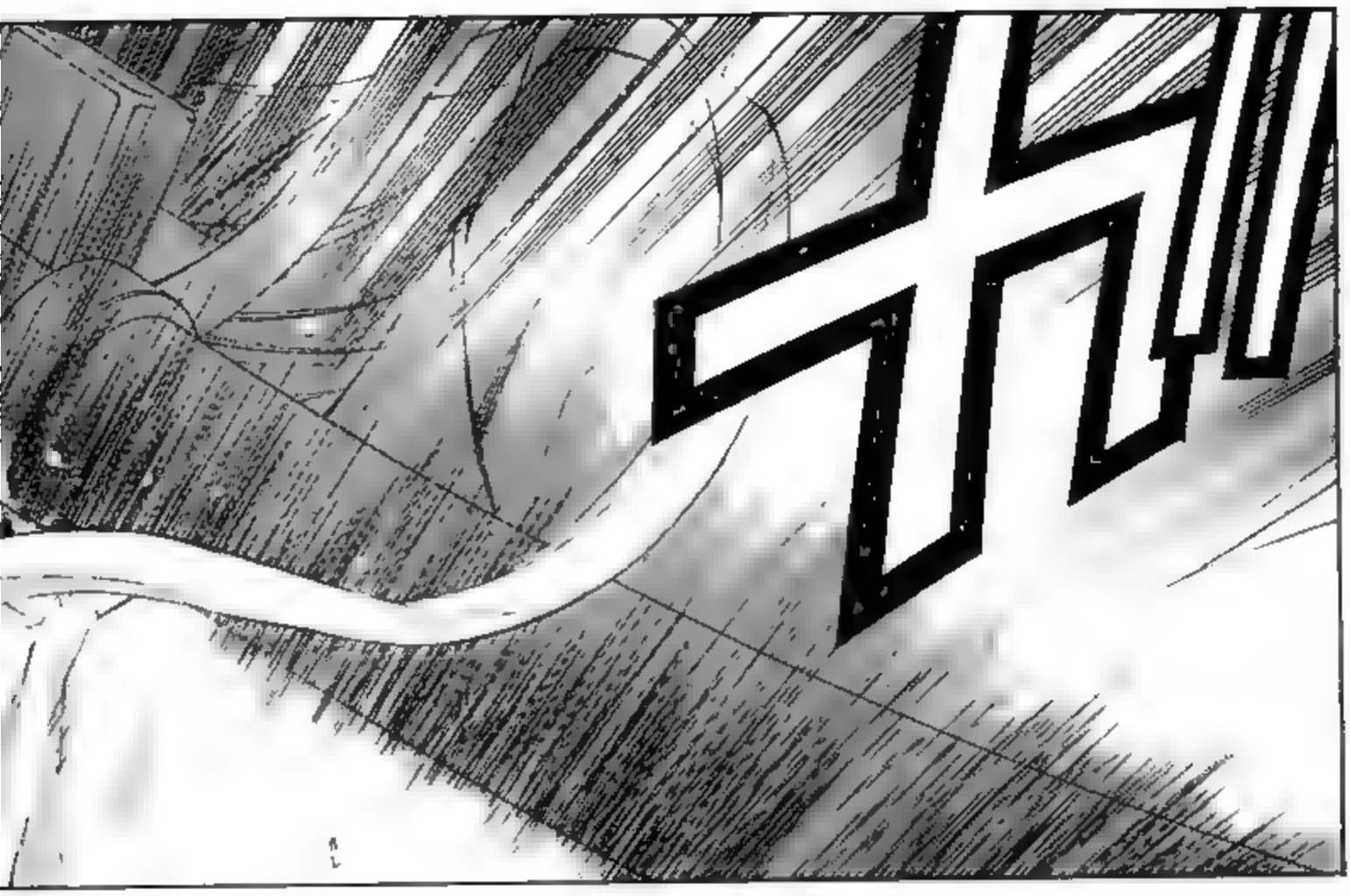
子供の願いは
勝手なもの――
儚いもの――
適わなかった事を
悔む様――

私の領域に
足を踏み入れた
者は――
フフ…
自らの子供のころの
夢に苦悩する……

自らの幻想——
思い出——
そして現実に
苦しみのたうつさまは
いつ見ても
和むわ…♡
私はその
動けなくなっている
ところを
ただ刈り取るだけ
……♡
これでまた
四人分の物語が
集まる……
私の願いへと
近づく……
強すぎるってのも
張り合いがなくて
残酷な話だわ

たあああっ!!
な…にっ!?
はずしたっ!!
バカな…!!
私の能力が
通じないとは
……!?

有人君達を
元にもどしてっ!!
この娘っ……
まさか……
そんな……
でもそれ
以外には……
貴女(あなた)……
でも それを
明確にしないと——
子供のころの記憶って
ある——?



人の……
話を……
やったっ!!
きき…な…さ…

はっ
あたりまえの事
聞かないでよ
ん？
子供のころの記憶
ぐらい……

……
あれ――？

待って……
変だわ…

うーん
やはり…ね

過去の記憶を
失っていては
思い出せもしない…
ということね
!!

私の能力も
万能では
ないってことが
わかって
ひとつ勉強に
なったわ
ちょっ
わたしは
貴女と
組み合わせが
悪いから
貴女とは
戦わないわね
……

やられた
怨みは
忘れないけど
……

どうしたっていうんだ……いったい……
…幻覚……
有人君…
過去の幻覚を見せて苦しめる敵…か……
よく倒したな…気がついたらやられていて手も足もでなかった――
倒してない…追い払っただけよ
お兄ちゃん…本当のお兄ちゃんだよね
あ…ああ…
だきっ
手強いな…どう対策すればいいものか――
しばらくは大丈夫だと思います
たぶん…
私の記憶がない限りは――

でも
何で……

思い出せないん
だろう……

Episode:12

ミィイイイィン……
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ちょっ……
ちょっと!
どこへ行くのよ!!
待ちなさいっ!!

あなたを監獄から
脱走させたのは
私なのよ!!
感謝しなさい
よっ!!
暁アカネっ!!
なっ!?
待てって
言ってるの
よっ!!
ったく
下手に出れば
つけ上がって…!!
これだから
ガキは…!!
少々痛い目に
合わないと
わからない
みたいね…

私の白き羽純白なる羽よ
その潰き美しき羽によって
記憶の闇をいぶり出せ!!
「醜い子供の夢(レヴィン)!!」

ふふ

…ア…
アンデル…セン…
ほ――っ
ほっほっほっほっ
ふふふふ
うふふふ
――!

このクソガキが!!
思い知ったか!!
低脳!!

ちょっと強いからって図に乗りやがって!!
ムカツク!!
ムカツク!!
ムカツク!!
ムカツク!!
いまいましい役立たずのくせに…!!
えっ!?

アンデルセン……
綺麗になる…

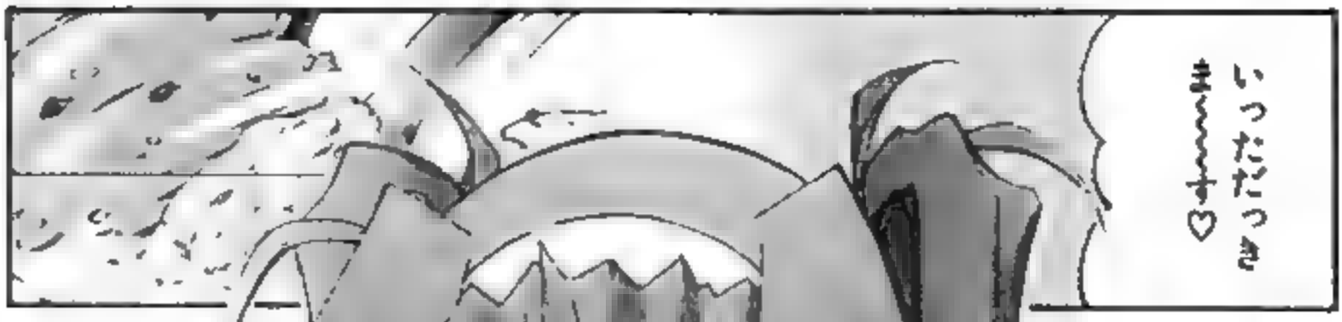
また……

虎狼
んなっ!?
バカな
あぁ
あ
!!
!!

炎舞(えんぶ)!!

くわばら
くわばら
あのガキが
幻覚を見ている
状態でなければ
ああなっている
ところだった
……
技にかかっていてなお
攻撃をしてくるなんて
あなどれないわ…
本当に
いまいましい!!
あれじゃあ
いいように
使えない…
…そう…
もっと
使いやすい——
違う奴らを
利用する事を
考えた方が
よさそう
ね…

あーっ
キサちゃんのそれ
おいしそーっ
一口食べて
みますの？
いいのっ!?


いっただっき
ま～～す♡

パクッ

ん～～～っ
幸せ～っ
ワィワィ
よかったですの
心理とは不思議なものだな
人の物の方がうまそうに見えるな
きらはちゃんの食べた場所……♡
ひときわおいしそうですの…♡

間接 間接
キスですのっ
ひょ
私にも一口くれ
え？

うん
うまい

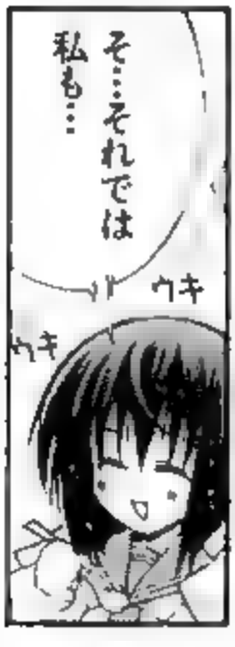
な・な
何て事を
するですの!!
その場所は
その場所だけは
食べてはいけません
のっ!!

きっとこれは悪魔が
私ときらはちゃんの
仲を裂こうと
しているですのっ
そしてその
悪魔こそ…
先輩ですのっ

勝手に食べて
わ…悪かった…
私のも食べると
いいよ…
けっこう
ですの
本当!!

ひょい
んーっ
おいしいっ
ぱくっ

き……
きらはちゃんが
食べた所再び…


そ…それでは
私も…
ウキ
ウキ

ガビーン
え？

フラ～～～
ああ…神様…

ままままままま…
ままま・ま…
まさかっ!!
キリカ先輩はわざとっ!?
キリカ先輩もきらはちゃんの事が……!?
もんもんもんもんもん

きっと
そうですの!!
きらはちゃんは
キリカ先輩が
有人先輩に
気があるかもって
言ってましたけど
それは
カモフラージュ
ですの!!
きらはちゃんが
かわいすぎる
からっ!!
きっとあんな実験や
こんな実験を
するつもりですの!!!

きらはちゃん
きらはちゃんを
悪の手から
キサが
守りますのっ!!

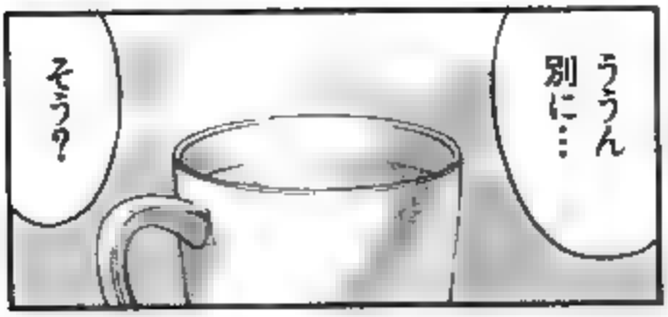
オイオイ
悪の手って
私か?

わかった わかった
きらはのパフェは
取らないよ
もう食べ
終わっちゃう
よ——だ

私の記憶…
ワタシのキオク……

何で思い出せないんだろう…
何か引っかかるのよね…

パフェとけてるよ?
どうかしたの?


ううん別に…
そう?

……
私…変かな?
変…?
そういうわけじゃないけど…

何か
らしく
ないかな…って

らしく
ないって…
どういう
意味
――？
私に
悩みが
ないとでも
――？

――！

いや…
そうじゃ
なくって…
ほら…
アリスだったら
そんなくよくよ
しないで前へ…
うわぁ～っ
いくら何でも
そんな本の中の女の子と
くらべるなんて…!!

アリス…
だったら…!?
あ…!!
さすがにこれは
マズかった
……かもっ

そうね…
きっとアリスだったら
困難に前向きに
立ち向かうわよねっ

ええ
ええっ
それで
OK
なのっ!?

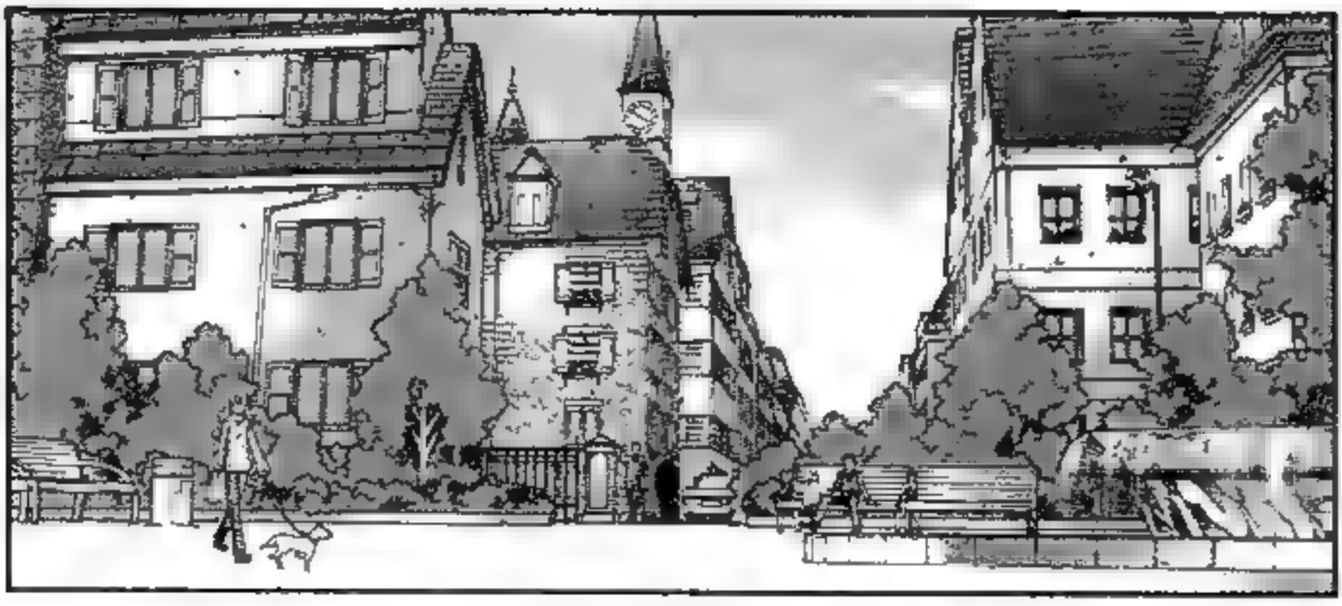
——よかった……
怒ってないみたいだ…
ありがと……心配してくれて
何だろう——
自然に有人君好みの女の子になりたいって思う——
これが…
"好き"って事なのかな——

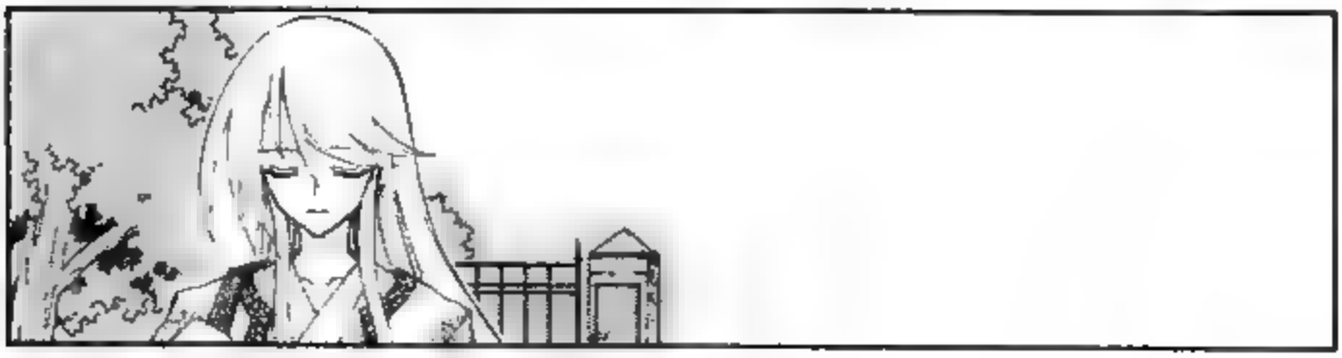
いやー
青春ねぇ〜っ
お姉さん
感動しちゃった
わ
でもね…
女の子を
物語の中の娘と
くらべるのは
感心しないな
マスター!!
この子達に
本日のスペシャル
ケーキセットを
1つずつ!!

?
?
あっ
この前の
……!!

やっほー
ひら
ひら
この前は
ごめんね
……何の
用件かな?
お姉さんも…
君達の
仲間に入れて
くれないかな

……でね
ワイ
ワイ
ワイ
ワイ
あの時
感じたのよ
こんな可愛らしくて
ピュアな想いを持つ
娘達を相手に
何をしていたん
だろうって
青春時代を
思い出して
少し泣いちゃったわ
いえ
正直な話
またまた
須羽さんってば
〜〜〜っ
……





……何か
用かしら？
箕木
キリカさん…

気づいて
いたか…
…だろうとは
思っていたが
……な

みんなは
どうだか
知らないが
私は貴女が
今一つ信用
できない…
いや…
信用する
確証が欲しい
…と言った方が
正しいか…

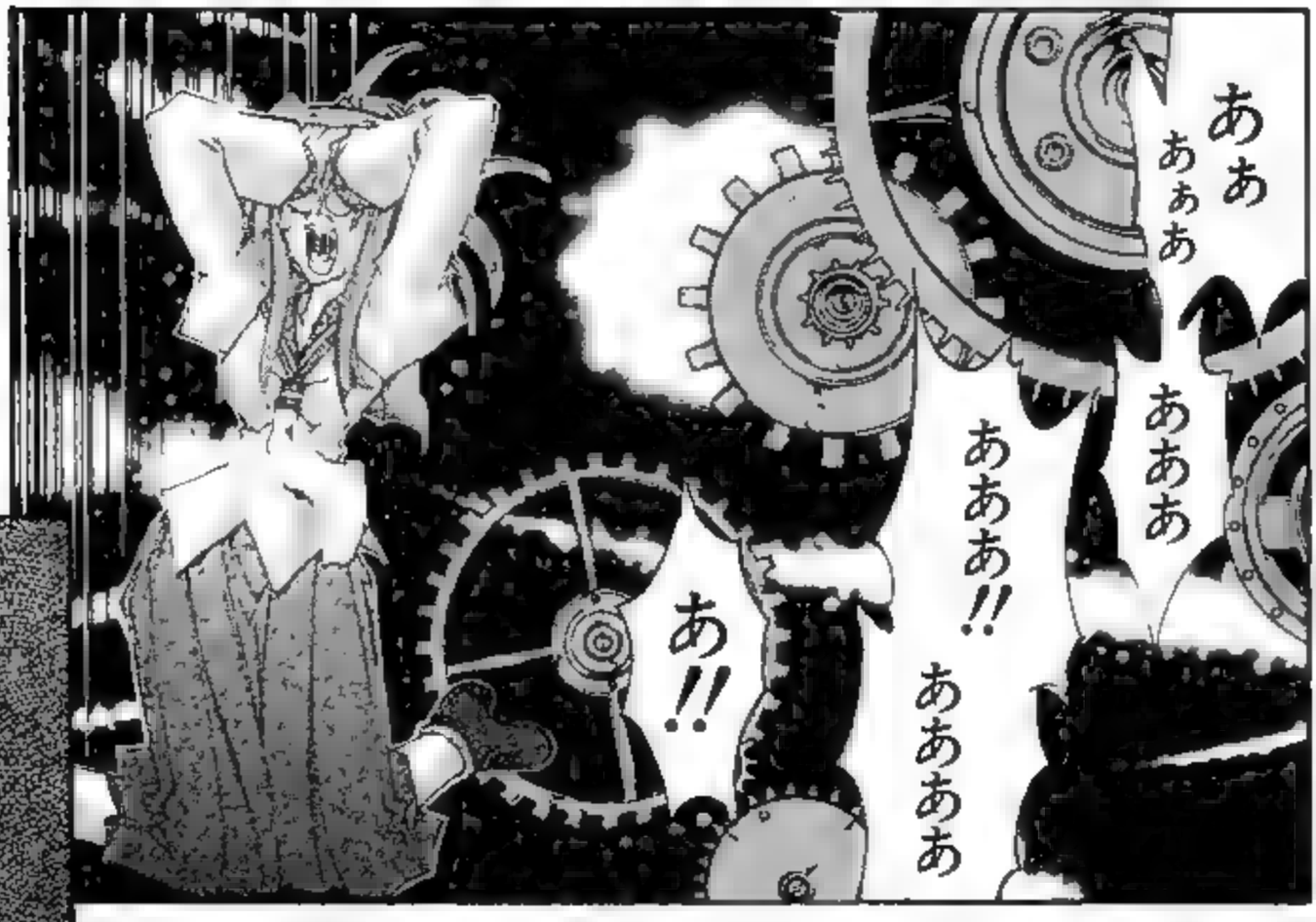
なぜなら…
貴女(あなた)は
強いからだ…
その強さがあって
仲間を欲しがる
理由が知りたい…
本当の理由
――

その能力でなお
人の手を借りないと
いけないほど
強い相手が
いるのか――
それとも
他に何か
あるのか――
いずれにせよ
感動したなどと
いう理由では
ないだろう
大丈夫…
この辺には
開けられるドアも
何もない…
不思議の空間(メルヴェイユスペース)での
能力は使えない
はずだ……

貴女(あなた)…確か
頭いいん
だったっけ?
空論上手できっと
上手く行くって
思っているん
でしょうね
手出しも
できないだろう…って
――なにっ!?
甘いわね――!!

メルヴェイユスペース
不思議の空間!!
そしてッ
レヴィラン
醜い子供の夢!!
フォレイ

なぜ…!?

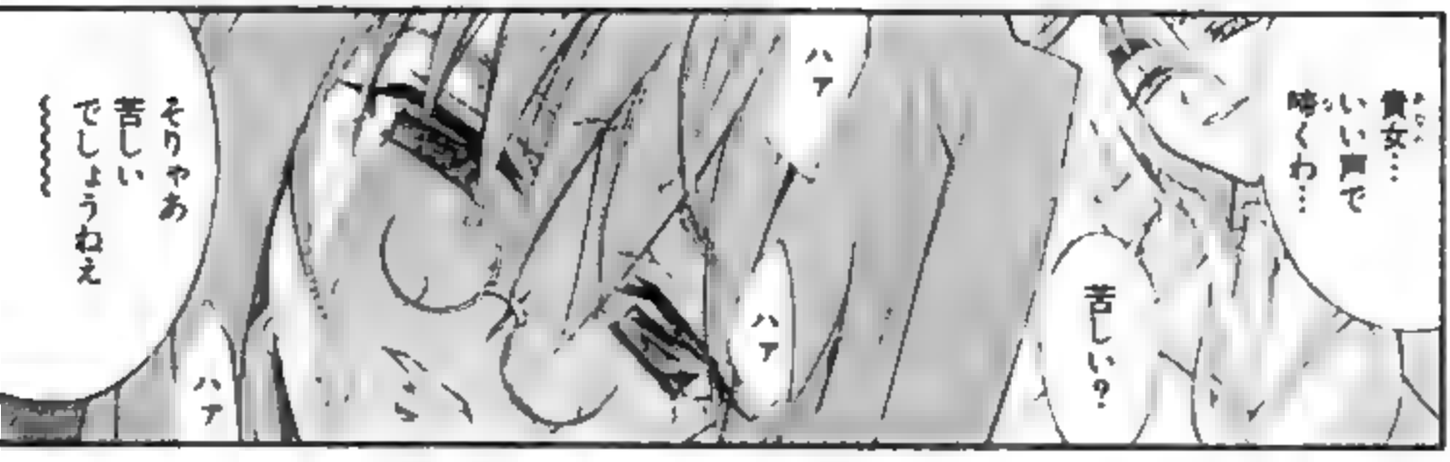

あぁ
あぁあ
あああ
あああ!!
あああああ
あ!!

いい天気……♡
天気に免じて一つ…いい事を教えてあげましょうか？
貴女の考えはあまり間違ってないわ……
あっ
あ～～だけど…
やっぱり貴女…悩んでるとおり人づきあい下手だわ

あの娘達みたいに素直だったらこんな長い長い苦しい思いをしなくてすんだのにねえ……
私ね…

人に勘繰られたり見下されるのが大っ嫌いなのよ!!
わかったかコラ!!
見えるかしら――？
私の白羽の鏃の羽の一枚…

この羽を
心に刺すと
それは心の物語の
栞となって
その記憶を
開きやすく
する…
はっ
あっ
貴女の苦痛の
記憶をいつでも
開くことが
できちゃうってわけ…
…あぁ


貴女…
いい声で
啼くわ…
苦しい？
ハァ
ハァ
ハァ
そりゃあ
苦しい
でしょうねえ
〜〜〜

これ以上
苦しみたく
なかったら…
私の奴隷に
なりなさい
犬コロみたいに
尻尾をふって
私に服従しなさい
〜〜〜…

聞こえてるんでしょ？
えぇ？
ハイはどうしたの？
ハイは!!!
まずは――一人……!!
は……
はい…
ほほほほ
ほほほほ

Episode: 13

ふあッ

ふ…二人がかり
なんて……
卑怯よ～～～っ
チームを組んじゃ
いけないなんてっ
ルールありません
ものね――

それにしても
二人で攻めてる
のに
全然隙が
できませんわ……
はは…
まるで きらは達
二人の動きが
見えている……
っていうか
読まれている
みたい……

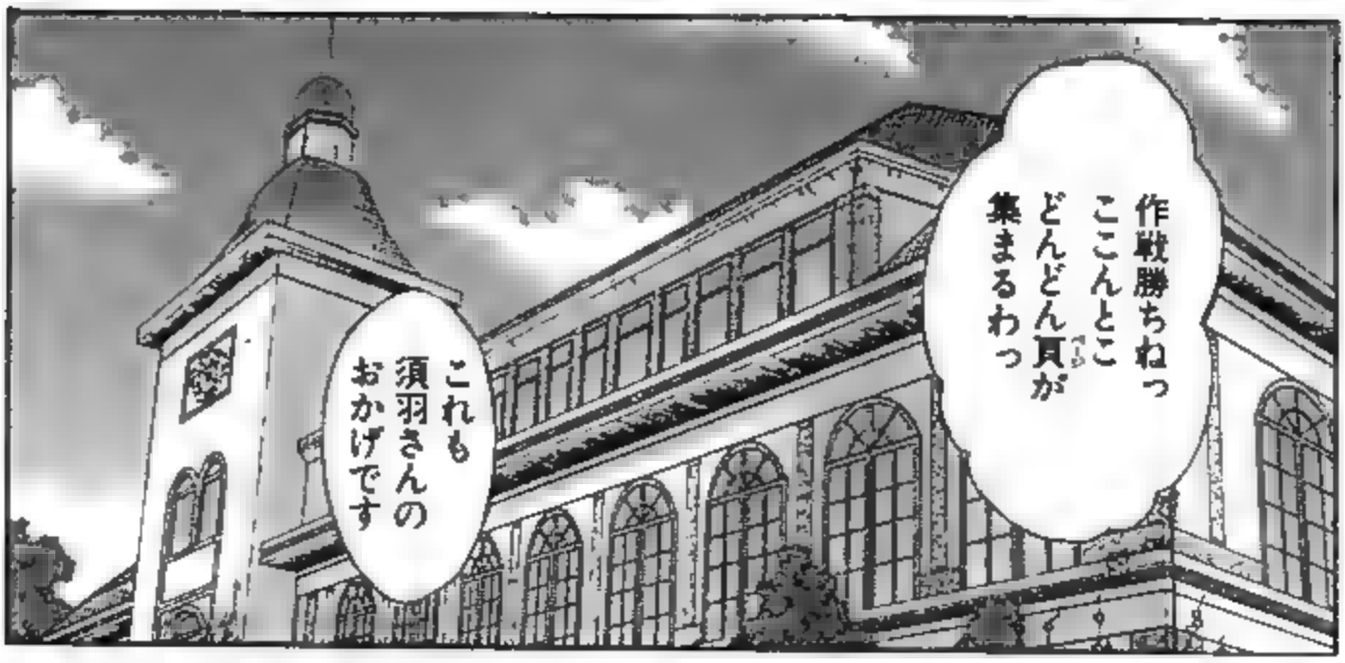
それじゃあ
こっちも
二人がかりで
いくぞ
大切な妹の体を
傷つけられるわけには
いかないからな
ちょっ
お兄ちゃんっ
双葉フウカ
デザイン協力 矢野たくみ

合体
双子の鍵!!
あら～何かすごい気を感じますの～
ヤバイんじゃない何かヤバイんじゃない
ヤバイですわ～～～
でもいくしかないもんねっ
ですわっ
バカな人達……
私の能力は—予知!!
それを上回る技やスピードがない限り
キイイイイ
一人目……
…その後あびせ蹴り……
人目は
私の足止め……

また外されたっ…!?
そしてそれを上回る相手とは戦わないことに——
三人目——
絶好調だよお兄ちゃん!!
三人目!?
さ……
三人がかりなんて…!!
心の秘密の扉——
内なる鍵によって

その物語を開き
示したまえ!!
卑怯
よ～～～っ

ごめん…ね
本写したら
ちゃんと
元に戻すから…
有人君
お願いねっ
……
実は
六人組
なんだけどね
ずいぶん
あるなあ……


作戦勝ちねっ
ここんとこ
どんどん頁が
集まるわっ
これも
須羽さんの
おかげです

…でも……
よかったの？
私まで頁を
もらっちゃって…
私 今日
何もしてない
わよ

先輩と一緒に
作戦立てて
くれたじゃ
ないですか
最後にみんなのを
合わせれば
いいんですから…

私は…
小さくなってしまって
戦闘向きでは
ないからな……
そのぐらいしか…

はじめは
わからなかったけど…
いいわ…この子の能力…
そう――
バックアップさえ
取っておけば
無敵ってことじゃ
ないの!?

でも……
そこまで
するには
もっと信頼を
得ておかないと
……

でもでも
――
みんなに物語を
返すのは
考えものですの
どうして――？
心の中の一部を
取られちゃうん
だよ――？

確かに――
一部を失うのは
嫌なことですの――
悲しいこと
ですの――
――でも

かつて私が
ありすちゃんに夏を
奪われた時――
何か心が軽くなったのも
事実ですの――

ただ――
執着していた
何かを失って――
からっぽになって――
その分
そのことで悩んだり
こだわったり
しないですんだ――
みたいな……

キサちゃんは
その時と今と
どっちが幸せ？
そりゃあ…
今ですの……
きらはちゃんと
一緒に
いられますし…

じゃあ やっぱり
返してあげた方が
いいよ

素直すぎる
わね……
一度勝った相手が
再戦してきた時に
また勝てるという
保障はないのに…

もっとも
そこが付け入る
隙だけど……

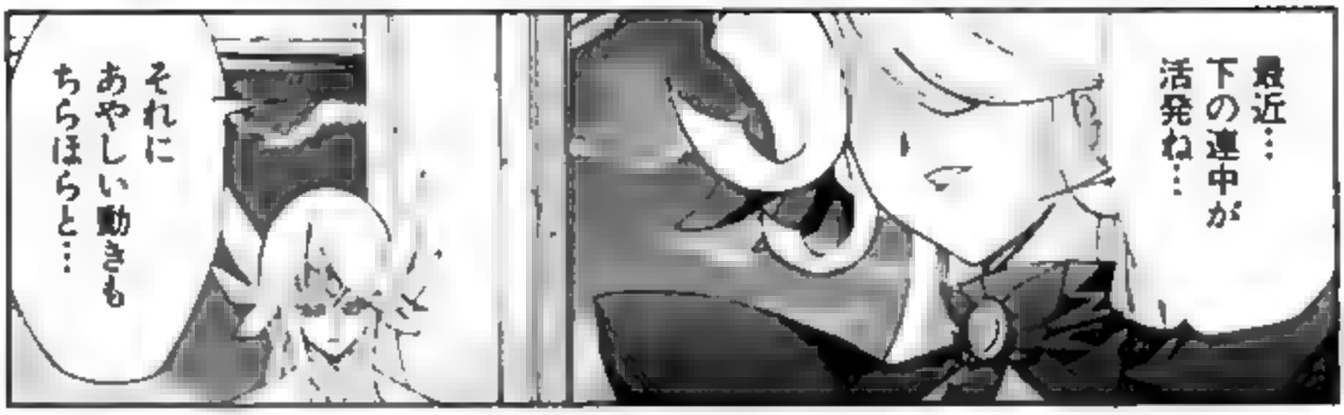
じゃあ 私
今日はこの辺で…ね
それに 私が
立ち会ったやつらには
栞羽を刺しておいたし
ね……

キサ君の話から
考えると——
各々(おのおの)の固執(こしつ)している
何か——が
アリスの物語…
——ということか
……

まさに
千差万別(せんさばんべつ)
ですよね…
ウズウズ
…調べてみる
価値はありそう
だな……

それが集まった
終わらない
物語……
うず
うず
なんて面白そう
なんだろう…!!
早く読みたい
わぁぁっ
ねっ 有人君っ

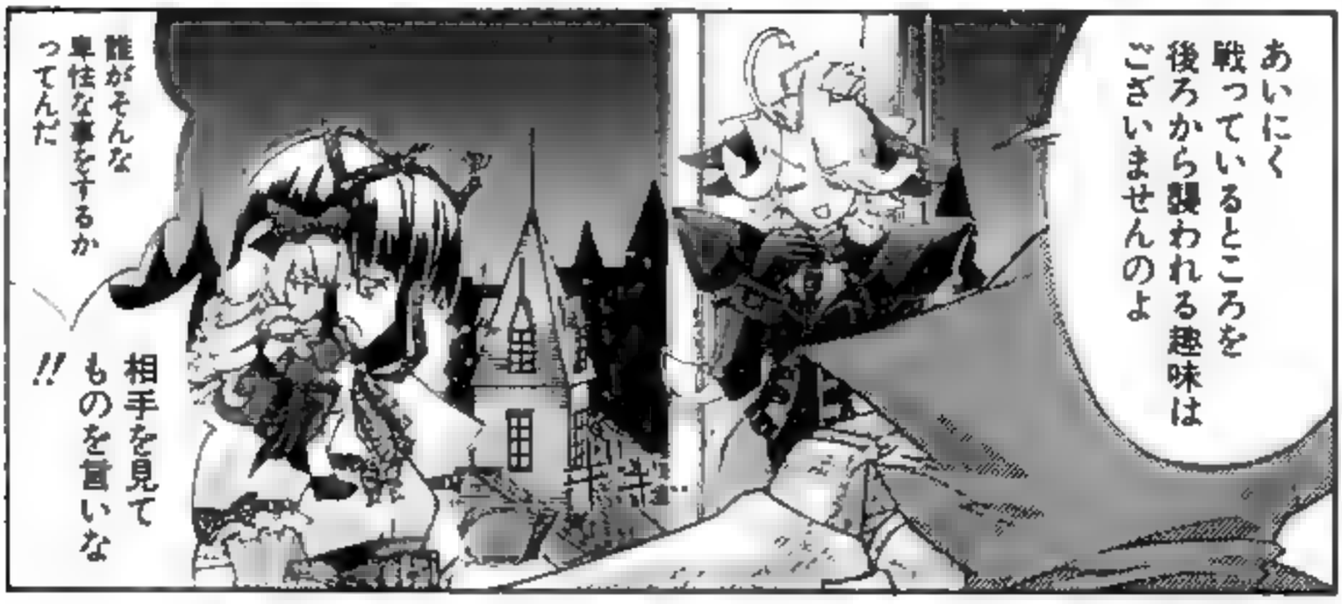
有人君…？
あーお兄ちゃん
こうなると周りが
ぜんぜん見えなく
なっちゃうのよ…
ムーン
想像が…
どんどん
ふくらんでいく…
僕の中の…
アリスの物語が
溢れ出しそうだ…!!

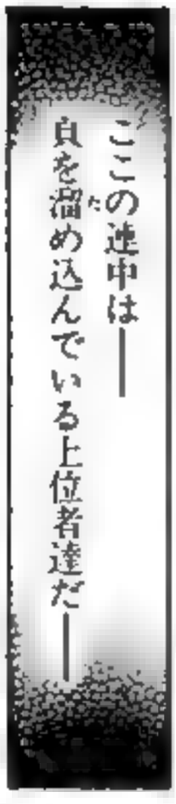

最近…
下の連中が
活発ね…
それに
あやしい動きも
ちらほらと…

あら…ジャクリーン
お姉様でも
下々の者を
気にするの？
第4位
大神三カ
物語の頁数 158頁
デザイン協力 桜沢いつみ

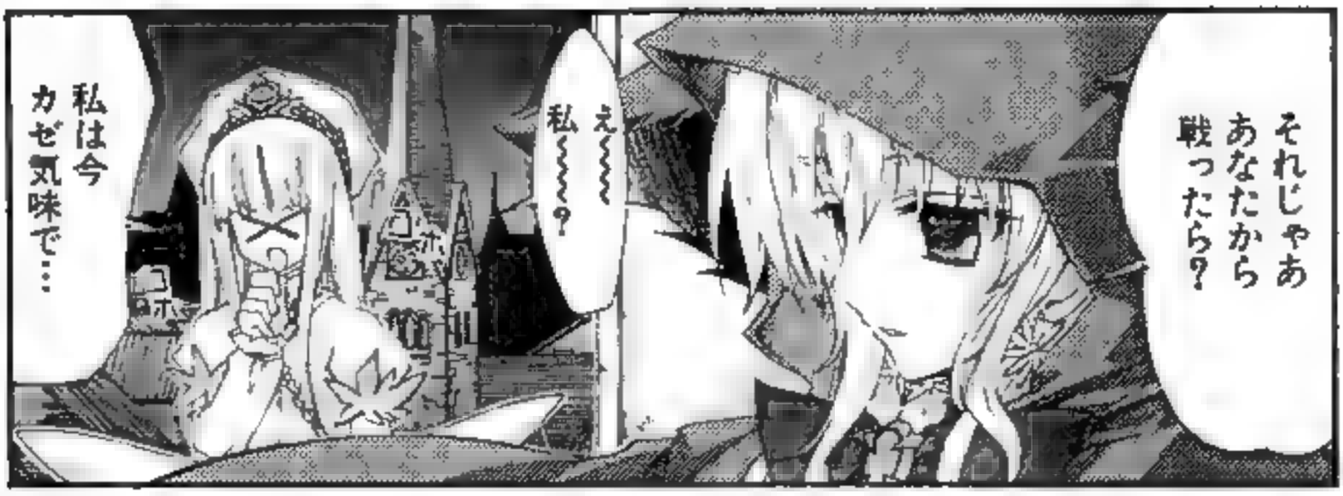
逆ね…
下々の連中まで
ちゃんと躾けて
おかないと…
でしょ？
第3位
ジャック・ジャクリーン
物語の頁数 172頁
デザイン協力 高木信孝

第6位
萌木原モユ
物語の真数 130真
デザイン協力 さあぺんと





第5位
ロリーナ・リリーナ
物語の真数 136真
デザイン協力 おーじ


それじゃあ
あなたから
戦ったら？
え～～～
私～～～？
私は今
カゼ気味で…

実力…持っている頁数が
均衡しすぎているため
お互いに手を
出せないでいる……
……
足元をすくわれるのを
恐れるあまり――
第8位
須羽アスカ
物語の頁数 106頁

僕は遠慮して
おきますよ
この会では
新入りだし
みなさんに
勝てる気が
しないんで
ちまちま
いきます
第7位
鳴見ナミ
物語の頁数 108頁
デザイン協力 MATSUDA98

誰かが抜きん出ていて
ここの全員を
倒すことができたら
わかってる
じゃない…
いい娘
ねえぇ
まったほっ
物語のほとんどは
手に入ることは
わかっているのに――!!

ちまちまいった方が
今ここにいない
第2位みたいに
固く勝ち上がれる
気がするし……
こんなところで
くすぶっていないで
早く願いをかなえたい
ですしね……
くすぶる…って
新入りが
粋がってんじゃねぇぞ――
ひん剝いて
ヒイヒイ言わすぞ
コラ!!
やるんですか?
あなたも無事では
すみませんよ
こまるのは
あなたの方じゃ
ないのかなぁ
くッ……
逆に――
この中の誰かの頁を
無傷ですべて奪うことが
できたら――
一人ずつ倒していくことが
できたなら――
……
No.2…いや No.1も…
夢じゃないっ…!!

そのための駒――
――そして――

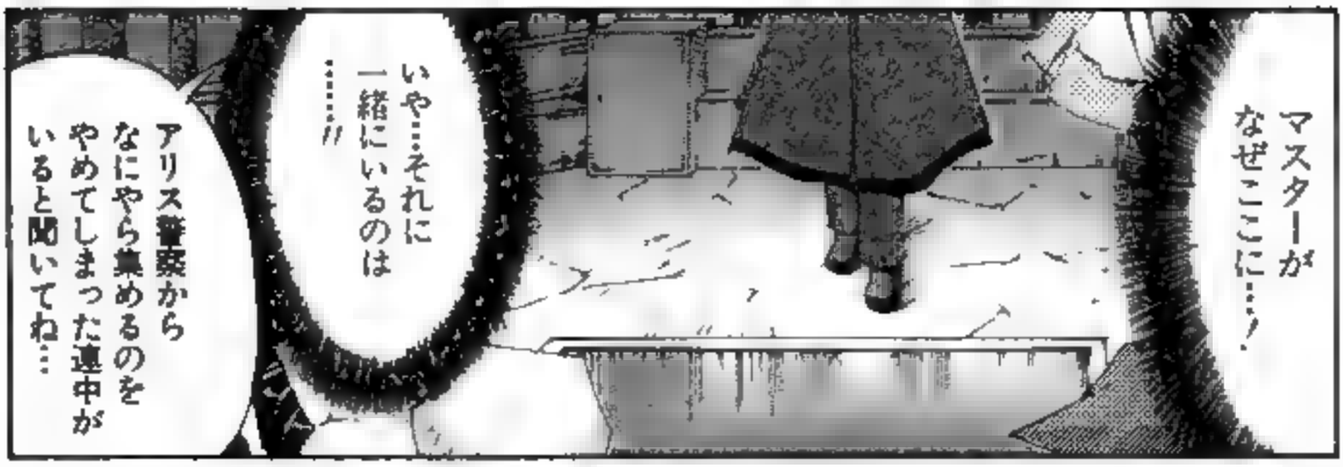
ね～
報告どおり
でしょ～

ばっ！

ここの連中
集めるのを放棄しちゃって
ますよ
アリス警察
――!!

確かに……
これでは
いつまでたっても
纏まらないわけだ

アリスマスター!!

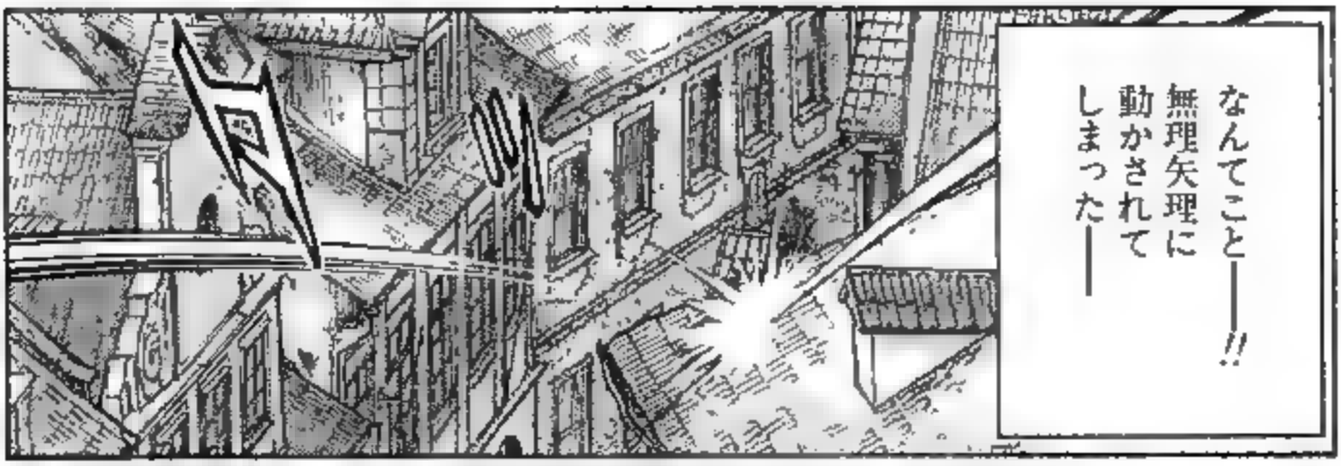

マスターが
なぜここに…！
いや…それに
一緒にいるのは
……!!
アリス警察から
なにやら集めるのを
やめてしまった連中が
いると聞いてね…

私は君達に——
正しい者の
手によって
一冊の本に——
君達すべての
物語がひとつに
なる——と
言ったね

物語というのは
時代に沿った
新しい物でないと
いけない——
常に頂点に
立ち続ける女——
リデル!!
停滞していては
その物語はその時
流れに取り残されて
しまう——
そんな寄せ集めでは
とうてい——

君達や私が
欲する

「終わらないアリス」に
辿り着くことはできない――!!


なんてこと――!!
無理矢理に
動かされて
しまった――

――
――始まる
――
!!
明日から――いえ
今日からにでも
バトルロイヤルが
始まってしまう

あの娘達は
足手まといに
なる――?
いえ――
あの能力は
惜しい――

――いや…私では
有栖川を倒すことが
できない以上
敵に回すと
やっかいだわ…

――それに……
はあっ

へえええ…
寄せ集めの物語は
「終わらないアリス」
ではないから
願いがかなわない…か

ずいぶんと勝手な話ですが――
まあいいや

そこにいるリデルさんが…
今の第1位なんですよね……

じゃあ貴女をボクが倒せばピロピロピロ
ナンバーワンってことだ――

この娘――キレるっ!!
逆にみんながいる所の方がけん制し合って連戦になる可能性が少ない――

どのみち勝たなきゃそろわないわけだしいいでしょ?

勝った……
僕の笛の鍵の第一楽節まで聞いて無事だった者は――

な…ッ
はぅ
アッ
ギャ。
速い――!!
――そして…ッ
第1位
リテル
物語の頁数：382頁

強い

あそこにいる
誰もが止め
なかったのは…
……
少しくらい
弱らせてくれれば
…という気持ちが
あったはず―
なのに…!!

勝ち残るには
どうしたら
いい――?
あ
須羽さーん
どうすれば
――

どうしたん
ですか?
須羽さん…
何か考えごと
ですか?
ひぃい

きらはちゃん…
ちょうどいいところへ……
もう一人ぐらい言いなりに
動くやつを増やす――か…
?

今度は誰がここに辿り着くと思う？
アリス……
さあ……
あの娘達に——
できれば…
誰であろうと
私のやることは
変わらないですから——

私はまた……
私の娘達に
私の呪縛を
解いてほしい…
集まった物語を
刈り取るだけ…
そう……
我々のこの…
「終わらないアリスの物語」に
新たなる物語が刻まれる日は
近い……

―介錯―
七戸輝正
太田 仁

―アシスタント―
戸田陽近
山下大輔
柴生田利則
梶山直人
冨岡将司
佐藤りえ
山下祐次

―スペシャルサンクス―
外山太一
柳井伸彦
田邊千奈美

―デザイン協力―
おーじ
さあべんと
桜沢いづみ
高木信孝
MATSUDA98
矢野たくみ

―協力―
高野信二

DENGEKI COMICS

鍵姫物語 永久アリス輪舞曲(ロンド)②

2005年5月15日　初版発行

著者　介錯

発行者　久木敏行

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館 電話03-5281-5215(編集)

発売元　株式会社角川書店　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話03-3238-8605(営業)

カバーデザイン　圀 夢見(伸童舎)

装丁　朝倉哲也 (design CREST)

印刷・製本　共同印刷株式会社

©KAISHAKU

Ⓡ本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。
本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／コミック電撃大王 2004年8月号～2005年2月号・コミック電撃帝王VOLUME1～2(メディアワークス刊)

ISBN4-8402-2983-X C9979